

3.2 自然的状況

3.2.1 気象、大気質、騒音、振動、悪臭等の状況

1) 気象の状況

対象事業実施区域周辺の地域気象観測所は図 3.2-1 に示すとおり、対象事業実施区域の北側約 9km に設置されている鳩山観測所と南側約 10km に設置されている飯能観測所である。飯能観測所では降水量のみを観測している。

鳩山観測所における平成 29 年の気温、降水量、日照時間、風向・風速を表 3.2-1 に、過去 10 年間の推移を表 3.2-2 に示す。また、鳩山観測所における最多風向の過去 10 年間の推移を表 3.2-3 に示す。

平成 29 年の年間降水量は 1,404.5mm、日平均気温は 14.4℃、年間の日照時間は 2,133.9 時間、平均風速は 1.6m/s であり、出現頻度の高い最多風向は北北西となっている。

過去 10 年間では、年間降水量は 1206.0mm～1651.5mm、日平均気温は 14.1℃～15.1℃、日照時間は 1795.8 時間～2246.8 時間、平均風速は 1.1m/s～1.6m/s で推移している。各年の最多風向はいずれの年も北北西となっている。

飯能観測所における平成 29 年の降水量を表 3.2-4 に、過去 10 年間の降水量の推移を表 3.2-5 に示す。

平成 29 年の年間降水量は 1,355.0mm であり、過去 10 年間では 1,323.0mm～1,613.5mm の範囲で推移している。

なお、調査対象範囲では、埼玉県が設置している大気汚染常時監視測定局の鶴ヶ島自排局（自動車排出ガス測定局）と日高局（一般環境大気測定局）で風向・風速の観測を行っている。

平成 29 年の鶴ヶ島自排局の年間風配図は図 3.2-2 に示すとおりであり、北東及び西南西からの風が多くなっている。同様に日高局の年間風配図は図 3.2-3 に示すとおりであり、南西及び北からの風が多くなっている。

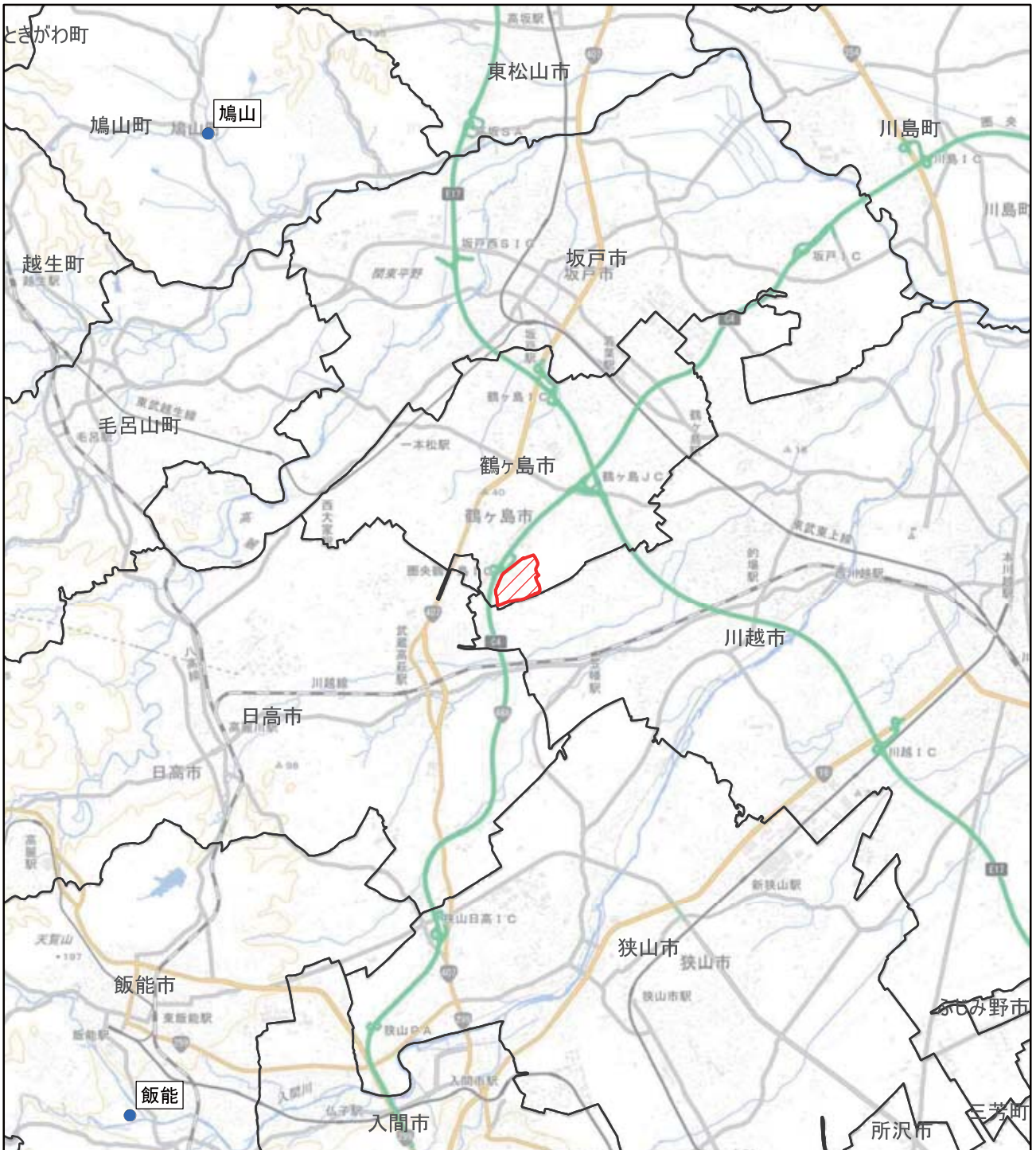



図3.2-1 気象観測所位置図

凡例

● 気象観測所

 対象事業実施区域

1:100,000



0 0.5 1 2 3 4 5 km

出典:「地域気象観測所一覧(平成29年3月)」(気象庁)より作成

表 3.2-1 鳩山観測所における気象の状況（平成 29 年）

月	降水量(mm)		気温(°C)					日照時間(h)	平均風速(m/s)	最多風向	
	合計	日最大	最大	平均			最高				最低
			1時間	日平均	日最高	日最低					
1	19.0	15.0	3.0	3.1	10.7	-3.8	17.9	-8.2	222.8	2.0	北北西
2	4.5	2.5	1.5	4.9	11.7	-2.6	20.8	-7.2	215.8	2.6	北北西
3	75.5	27.5	4.5	6.9	12.9	0.1	19.2	-5.5	196.7	2.1	北北西
4	59.0	33.5	5.5	13.3	20.7	6.4	27.9	1.4	211.3	1.9	北北西
5	75.5	28.0	8.5	19.2	25.7	12.9	33.9	5.7	201.5	1.5	南南東
6	71.5	35.5	12.0	21.7	27.4	16.9	32.2	12.0	165.6	1.7	北北西
7	196.5	94.5	52.0	27.1	32.8	22.7	36.8	20.1	170.6	1.2	南南東
8	285.5	66.5	39.5	25.7	30.4	22.5	37.2	18.9	80.4	1.0	北北西
9	143.5	45.0	6.0	21.9	27.6	17.4	33.5	13.0	148.1	1.3	北北西
10	455.5	119.5	34.5	16.0	20.7	12.1	30.9	3.1	112.8	1.4	北北西
11	12.5	9.0	3.5	9.1	16.2	3.0	23.8	-3.2	180.6	1.4	北北西
12	6.0	4.0	3.0	3.5	11.6	-3.4	16.7	-7.0	227.7	1.5	北北西

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）
「過去の地点気象データ・ダウンロード」（気象庁ウェブサイト）

表 3.2-2 鳩山観測所における気象の推移（平成 20 年～平成 29 年）

年	降水量(mm)		気温(°C)			日照時間(h)	平均風速(m/s)	最多風向
	合計	日最大	日平均	最高	最低			
平成 20 年	1,401.0	97.0	14.1	37.0	-7.8	1,819.3	1.4	北北西
平成 21 年	(1,105.5)	(100.5)	14.4	37.1	-8.0	1,795.8	1.2	北北西
平成 22 年	(1,188.0)	(63.5)	14.7	38.5	-8.6	2,030.4	1.1	北北西
平成 23 年	1,396.5	162.5	14.2	39.4	-10.2	2,073.8	1.4	北北西
平成 24 年	1,269.0	102.5	14.1	37.6	-9.8	2,102.0	1.5	北北西
平成 25 年	1,206.0	100.5	14.6	39.8	-8.9	2,246.8	1.6	北北西
平成 26 年	1,651.5	149.0	14.3	38.6	-9.3	2,221.9	1.6	北北西
平成 27 年	1,366.5	166.5	15.1	38.3	-7.0	2,028.8	1.5	北北西
平成 28 年	1,366.0	204.5	15.1	37.9	-8.2	1,945.2	1.6	北北西
平成 29 年	1,404.5	119.5	14.4	37.2	-8.2	2,133.9	1.6	北北西

注) () 内の数値は統計を行う対象資料が許容範囲を超えてかけているもの（資料不足値）

最多風向は「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）の「日ごとの値」に掲載されている日ごとの「最多風向」を年ごとに集計し、各年の中で最も出現頻度が高い最多風向を記載した。

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）

表 3.2-3 鳩山観測所における最多風向の推移（平成 20 年～平成 29 年）

方位	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	合計 (出現回数)
北	45	43	32	30	37	28	32	28	20	27	322
北北東	2	1	6	5	0	2	4	0	2	3	25
北東	3	3	1	0	0	2	0	1	1	3	14
東	16	16	7	5	5	6	8	5	8	9	85
東北東	3	8	7	7	1	0	2	4	5	1	38
東南東	17	16	13	12	25	9	12	14	18	12	148
南東	14	10	12	25	8	11	14	8	13	11	126
南南東	57	57	71	58	75	62	48	56	62	52	598
南	9	3	10	6	3	10	1	5	2	11	60
南南西	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
南西	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
西南西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西	0	1	0	2	1	3	2	1	2	0	12
西北西	9	10	13	6	4	6	7	5	6	2	68
北西	67	84	56	44	53	47	56	71	54	53	585
北北西	124	113	136	165	153	179	176	166	173	181	1,566

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）

表 3.2-4 飯能観測所における気象の状況（平成 29 年）

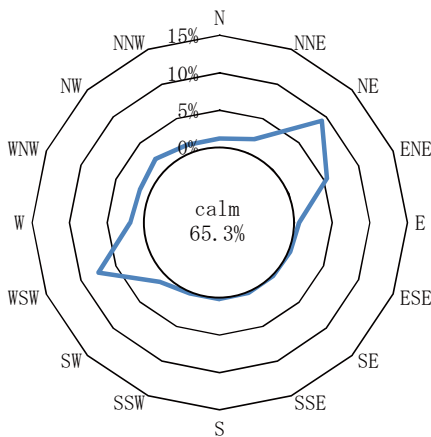
月	降水量(mm)		
	合計	日最大	最大 1時間
1	22.0	16.5	3.0
2	6.5	3.5	3.5
3	72.5	25.5	4.0
4	69.5	34.5	5.5
5	56.5	27.0	5.0
6	82.5	52.5	13.5
7	151.5	50.0	28.0
8	195.0	64.0	15.0
9	142.5	48.5	6.5
10	526.5	150.0	33.0
11	18.5	11.5	4.0
12	11.5	8.5	5.5

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）

表 3.2-5 飯能観測所における気象の推移（平成 20 年～平成 29 年）

年	降水量(mm)	
	合計	日最大
平成 20 年	1613.5	106.5
平成 21 年	1324.0	95.5
平成 22 年	1583.0	148.0
平成 23 年	1443.0	186.0
平成 24 年	1420.0	106.5
平成 25 年	1323.0	117.5
平成 26 年	1569.5	197.5
平成 27 年	1468.0	200.5
平成 28 年	1476.0	218.5
平成 29 年	1355.0	150.0

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）



注) calm は 0.4m/s 以下の風を示す。

出典：「埼玉県大気汚染常時監視システム」（埼玉県ウェブサイト）より作成

図 3.2-2 鶴ヶ島自排局における年間風配図（平成 29 年）

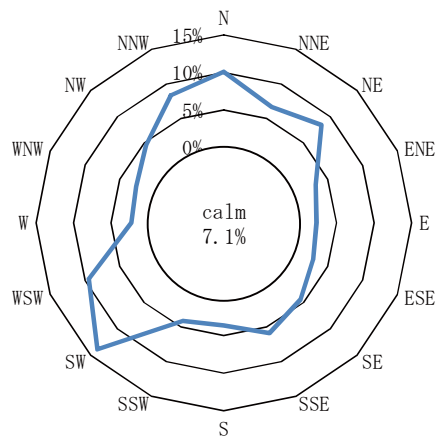


図 3.2-3 日高局における年間風配図（平成 29 年）

2) 大気質の状況

(1) 測定局及び測定項目の状況

調査対象範囲の大気汚染常時監視測定局の位置を図 3.2-4 に、各測定局における測定項目を表 3.2-6 に示す。

一般環境大気測定局（以下、「一般局」という。）は、川越市霞ヶ関測定局と、日高測定局の 2 測定局があり、自動車排出ガス測定局（以下、「自排局」という。）は、鶴ヶ島自排局の 1 測定局がある。

表 3.2-6 大気汚染常時監視測定局の測定項目

種 類	測定局名	測定場所	二酸化 硫黄 (SO ₂)	二酸化 窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状 物質 (SPM)	光化学 オキシダント (Ox)	一酸化 炭素 (CO)	微小粒子 状物質 (PM _{2.5})
一般局	川越市霞ヶ関	伊勢原 第 5 緑地	—	○	○	○	—	○
	日高	高麗川 南公民館	○	○	○	○	—	○
自排局	鶴ヶ島自排	首都圏 中央連絡 自動車道	—	○	○	—	—	—

注) ○：測定対象、—：測定対象外

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（平成 27 年度）」（埼玉県環境部）

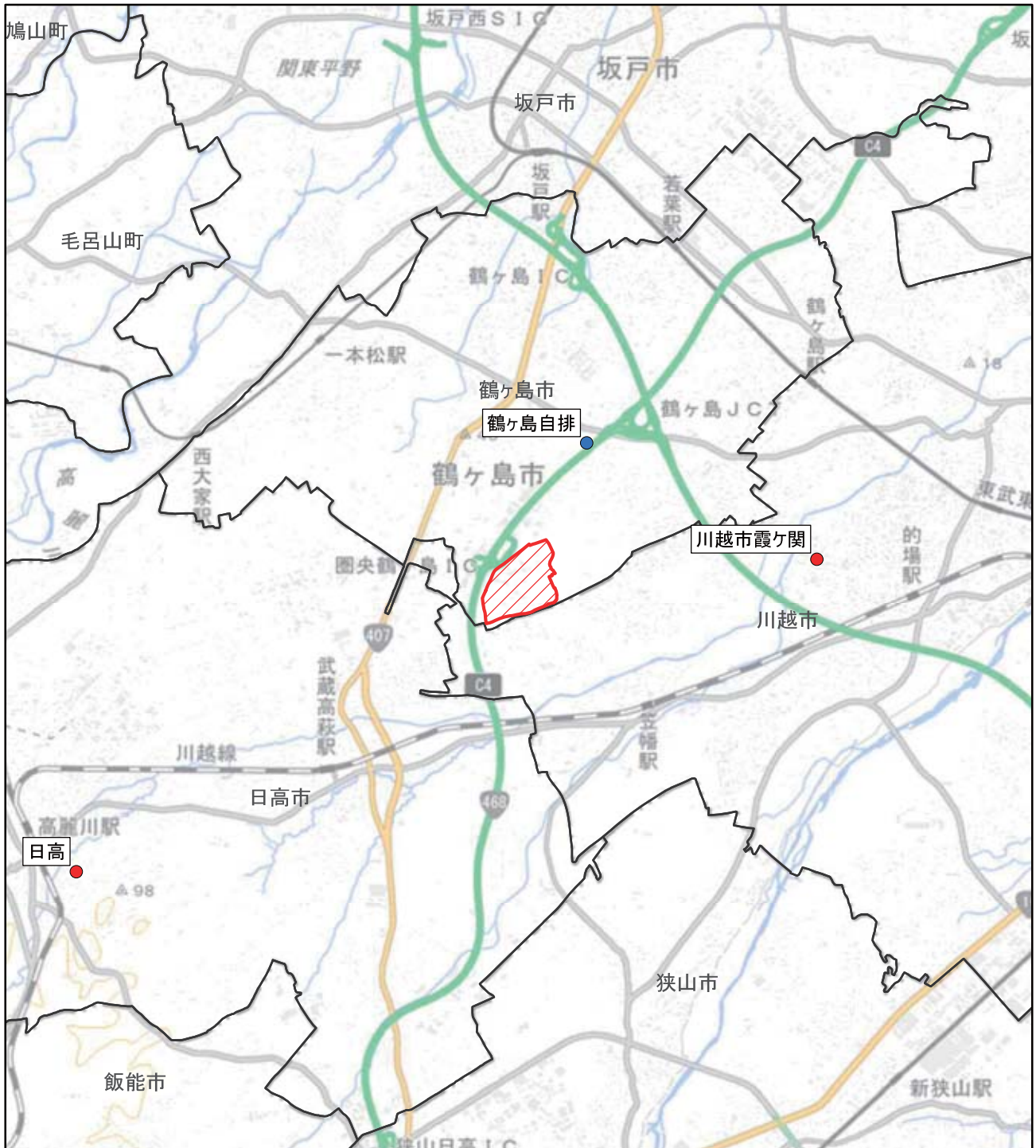



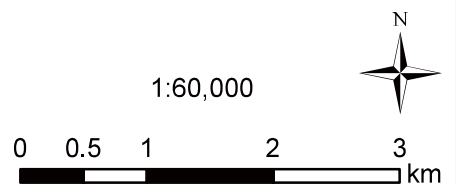
図3.2-4 大気測定局位置図

凡例

- 一般局
- 自排局

 対象事業実施区域

出典:「そらまめ君(環境省大気汚染物質広域監視システム)」
(環境省 水・大気環境局)より作成



(2) 二酸化硫黄の状況

平成 28 年度の二酸化硫黄の測定結果を表 3.2-7 に、過去 5 年間の日平均値の 2%除外値の推移を図 3.2-5 に示す。

平成 28 年度の日高測定局の測定結果は、環境基準を達成している。

過去 5 年間の日平均値の 2%除外値は、2 測定局ともほぼ横ばいで推移しており、いずれも環境基準を下回っている。

なお、川越市霞ヶ関測定局においては平成 26 年度まで測定を行っていた。

表 3.2-7 二酸化硫黄測定結果（平成 28 年度）

単位：ppm

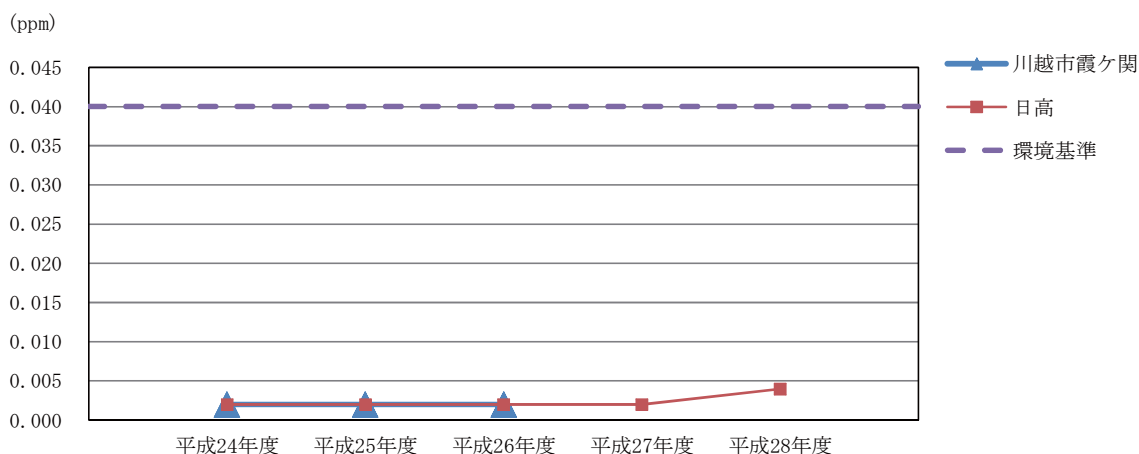
測定局名	年間平均値	日平均値の 2%除外値	1 時間値の最高値	環境基準の適否	
				長期的評価	短期的評価
日高	0.001	0.004	0.031	○	○

注 1) 環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。」である。

注 2) 短期的評価は、「1 時間値が 0.1ppm 以下で、かつ、日平均値が 0.04ppm 以下であること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

注 3) 長期的評価は、「日平均値の 2%除外値が 0.04ppm 以下で、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続していないこと。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

出典：「埼玉県の大気状況」（埼玉県環境部）



出典：「大気汚染物質の常時監視測定結果について」（各年、埼玉県環境部）より作成

図 3.2-5 二酸化硫黄測定結果の推移
(日平均値の 2%除外値)

(3) 二酸化窒素の状況

平成 28 年度の二酸化窒素の測定結果を表 3.2-8 に、過去 5 年間の日平均値の年間 98%値の推移を図 3.2-6 に示す。

平成 28 年度の測定結果は、すべての測定局で環境基準を達成している。

過去 5 年間の日平均値の年間 98%値は、すべての測定局ともほぼ横ばいで推移しており、いずれも環境基準を下回っている。

表 3.2-8 二酸化窒素測定結果（平成 28 年度）

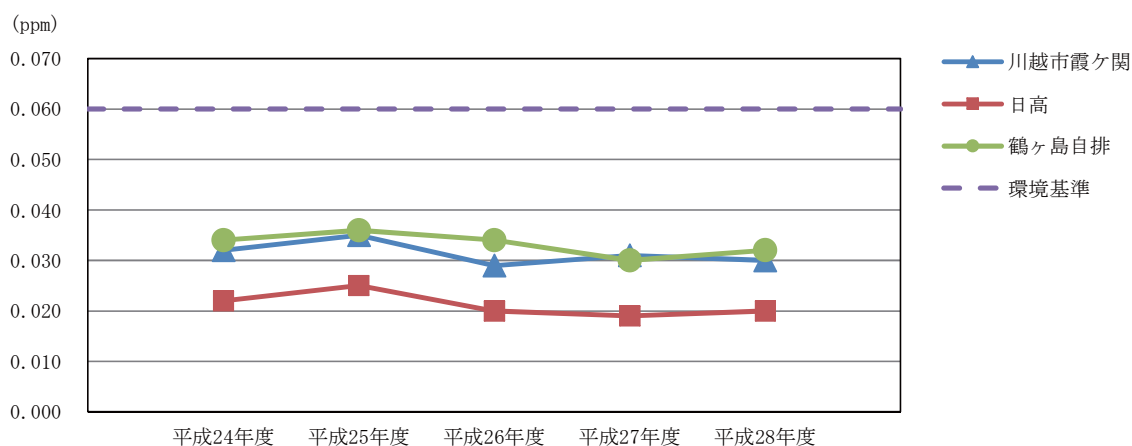
単位：ppm

測定局名	年間平均値	日平均値の 年間 98%値	環境基準の適否
川越市霞ヶ関	0.013	0.031	○
日高	0.009	0.019	○
鶴ヶ島自排	0.017	0.030	○

注 1) 環境基準は「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm～0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。」である。

注 2) 評価は「年間にわたる 1 日平均値のうち、低い方から 98%に相当する値（98%値）が、0.06ppm 以下に維持されること。」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

出典：「埼玉県の大気状況」（埼玉県環境部）



出典：「大気汚染物質の常時監視測定結果について」（各年、埼玉県環境部）より作成

図 3.2-6 二酸化窒素測定結果の推移
(日平均値の年間 98%値)

(4) 浮遊粒子状物質の状況

平成 28 年度の浮遊粒子状物質の測定結果を表 3.2-9 に、過去 5 年間の日平均値の 2%除外値の推移を図 3.2-7 に示す。

平成 28 年度の測定結果は、長期的評価、短期的評価ともに、すべての測定局で環境基準を達成している。

過去 5 年間の日平均値の年間 98%値は、すべての測定局もほぼ横ばいで推移しており、いずれも環境基準を下回っている。

表 3.2-9 浮遊粒子状物質測定結果（平成 28 年度）

単位：mg/m³

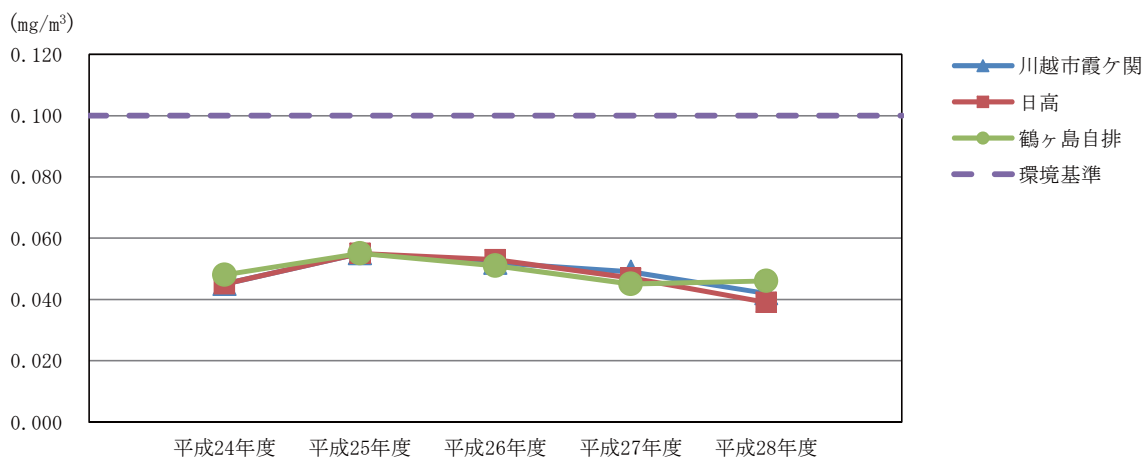
測定局名	年間平均値	日平均値の 2%除外値	1 時間値の最高値	環境基準の適否	
				長期的評価	短期的評価
川越市霞ヶ関	0.018	0.042	0.147	○	○
日高	0.016	0.039	0.160	○	○
鶴ヶ島自排	0.021	0.046	0.134	○	○

注 1) 環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³以下であること。」である。

注 2) 短期的評価は、「1 時間値が 0.20mg/m³以下で、かつ、日平均値が 0.10mg/m³以下であること。」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

注 3) 長期的評価は、「日平均値の 2%除外値が 0.10mg/m³以下で、かつ、日平均値が 0.10mg/m³を超えた日が 2 日以上連続していないこと」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

出典：「埼玉県の大気状況」（埼玉県環境部）



出典：「大気汚染物質の常時監視測定結果について」（各年, 埼玉県環境部）より作成

図 3.2-7 浮遊粒子状物質測定結果の推移
(日平均値の 2%除外値)

(5) 光化学オキシダントの状況

平成 28 年度の光化学オキシダントの測定結果を表 3.2-10 に、過去 5 年間の昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数の推移を図 3.2-8 に示す。

平成 28 年度の測定結果は、いずれの測定局も環境基準を達成していない。

過去 5 年間の昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数は日高局でほぼ横ばいであるが、川越市霞ヶ関測定局は平成 26 年度以降、増加傾向である。

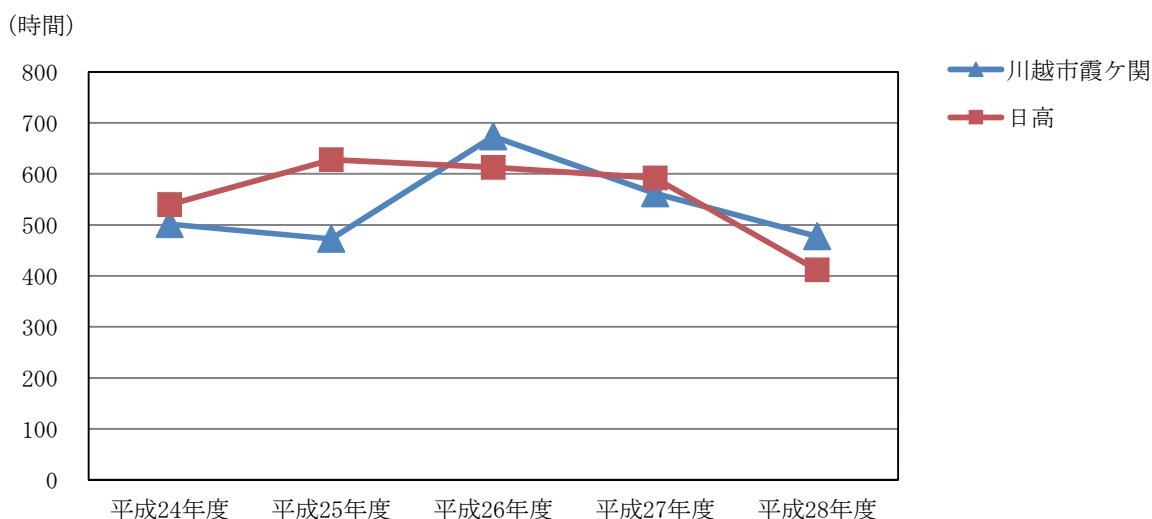
表 3.2-10 光化学オキシダント測定結果（平成 28 年度）

測定局名	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数	昼間の 1 時間値が 0.12ppm を超えた時間数	環境基準の適否
川越市霞ヶ関	478	2	×
日高	412	2	×

注 1) 環境基準は「1 時間値が 0.06ppm 以下であること。」である。

注 2) 評価方法は「年間を通じて、1 時間値が 0.06ppm 以下に維持されること。(ただし 5 時～20 時の昼間時間帯について評価する)」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

出典：「埼玉県の大気状況」（埼玉県環境部）



出典：「大気汚染物質の常時監視測定結果について」（各年, 埼玉県環境部）より作成

図 3.2-8 光化学オキシダント測定結果の推移
(昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数)

(6) 微小粒子状物質の状況

平成 28 年度の微小粒子状物質の測定結果を表 3.2-11 に示す。

平成 28 年度の測定結果は、すべての測定局において環境基準を達成している。

微小粒子状物質の測定は、川越市霞ヶ関測定局では平成 26 年度から、日高測定局では平成 24 年度から行われている。

表 3.2-11 微小粒子状物質測定結果（平成 28 年度）

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

測定局名	年間平均値	日平均値の 年間 98%値	環境基準の適否	
			長期基準評価	短期基準評価
川越市霞ヶ関	9.4	25.5	○	○
日高	10.8	26.0	○	○

注 1) 環境基準は、「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」である。

注 2) 短期基準評価は、「年間にわたる 1 日平均値のうち、低い方から 98%に相当する値（98%値）が、 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

注 3) 長期基準評価は、「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

出典：「埼玉県の大気状況」（埼玉県環境部）

(7) ダイオキシン類の状況

過去 5 年間のダイオキシン類の測定結果を表 3.2-12 に示す。

ダイオキシン類については日高測定局で測定されており、過去 5 年間は環境基準を達成している。

表 3.2-12 ダイオキシン類の測定結果

単位： $\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$

測定局名・ 環境基準の適否	年平均値				
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
日高	0.022	0.018	0.016	0.024	0.035
環境基準の適否	○	○	○	○	○

注 1) 環境基準は「年平均値が $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下であること。」である。

注 2) 評価は、「年平均値が $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下であること。」を満足した場合は「○」とし、満足しない場合は「×」とした。

出典：「ダイオキシン類大気常時監視結果」（各年、埼玉県環境部）

(8) 有害大気汚染物質の状況

調査対象範囲において有害大気汚染物質の測定は行われていない。

(9) 公害苦情の状況

関係市の大気汚染に係る公害苦情件数の推移を表 3.2-13 に示す。

鶴ヶ島市の過去 5 年間の公害苦情件数は 15 件～26 件であり、近年、減少傾向にある。

表 3.2-13 公害苦情件数の推移（大気汚染）

単位：件

年 度	鶴ヶ島市	川越市	狭山市	坂戸市	日高市
平成 24 年度	26	16	42	26	26
平成 25 年度	25	17	41	13	16
平成 26 年度	22	21	51	19	18
平成 27 年度	22	12	39	14	29
平成 28 年度※	15	-	-	-	-

※平成 28 年 2 月 21 日時点で公表されているもの

出典：「鶴ヶ島市の環境行政、環境報告書」（各年、鶴ヶ島市）

「統計坂戸 平成 27 年度版」（平成 29 年 3 月、坂戸市）

「平成 28 年度版川越市の環境行政」（平成 29 年 2 月、川越市環境部）

「統計ひだか」（日高市ウェブサイト）

「統計さやま 平成 26 年版、平成 28 年版」（狭山市ウェブサイト）

3) 騒音の状況

(1) 騒音の状況

調査対象範囲における平成 27 年度の自動車交通騒音の調査地点を図 3.2-9 に、調査結果（点的評価）を表 3.2-14 に示す。

調査対象範囲では 20 箇所で測定が行われている。

対象事業実施区域に近い調査地点は、国道 407 号の鶴ヶ島市高倉であり、昼間は環境基準を達成しているが、夜間は環境基準を超過していた。

表 3.2-14 自動車交通騒音の調査結果（点的評価：平成 27 年度）

単位：dB

No.	調査道路	測定地点	類型	車線	等価騒音レベル							
					測定値		環境基準		適否	要請限度		適否
					昼間	夜間	昼間	夜間		昼間	夜間	
1	関越自動車道	鶴ヶ島市脚折 1384-89	B	6	62	58	70	65	○	75	70	○
2		鶴ヶ島市南町 1-7-22	B	6	59	56	70	65	○	75	70	○
3	国道 468 号 (圏央道)	鶴ヶ島市上広谷 590-13	B	4	56	53	70	65	○	75	70	○
4		鶴ヶ島市大字太田ヶ谷	B	4	61	58	65	60	○	75	70	○
5	国道 407 号	坂戸市八幡 1-2	C	4	69	67	70	65	×	75	70	○
6		坂戸市石井 2327-6	B	4	67	66	70	65	×	75	70	○
7		鶴ヶ島市三ツ木 176-5	B	4	66	65	70	65	○	75	70	○
8		鶴ヶ島市高倉 1253-8	B	2	68	68	70	65	×	75	70	○
9	県道川越日高線	川越市大字笠幡	B	2	67	64	70	65	○	75	70	○
10	県道鯨井狭山線	狭山市柏原	B	2	67	61	70	65	○	75	70	○
11	県道笠幡狭山線	狭山市柏原	B	2	68	60	70	65	○	75	70	○
12	県道 ときがわ坂戸線	坂戸市大字小山	B	2	69	62	70	65	○	75	70	○
13	県道片柳川越線	坂戸市大字塚越	B	2	69	63	70	65	○	75	70	○
14	県道 川越坂戸毛呂山線	坂戸市千代田 1-1-22	B	2	65	62	70	65	○	75	70	○
15		鶴ヶ島市五味ヶ谷 10-5	B	2	64	61	70	65	○	75	70	○
16		鶴ヶ島市五味ヶ谷 255-2	B	2	64	61	70	65	○	75	70	○
17	県道川越越生線	鶴ヶ島市下新田 230-1	B	2	67	61	70	65	○	75	70	○
18		鶴ヶ島市太田ヶ谷 662-5	B	2	64	59	70	65	○	75	70	○
19	市道 547-2 号線	鶴ヶ島市三ツ木 252-1	B	2	61	55	65	60	○	75	70	○
20	市道 758 号	鶴ヶ島市藤金 876-11	B	2	55	49	65	60	○	75	70	○

出典：「平成 27 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（埼玉県ウェブサイト）

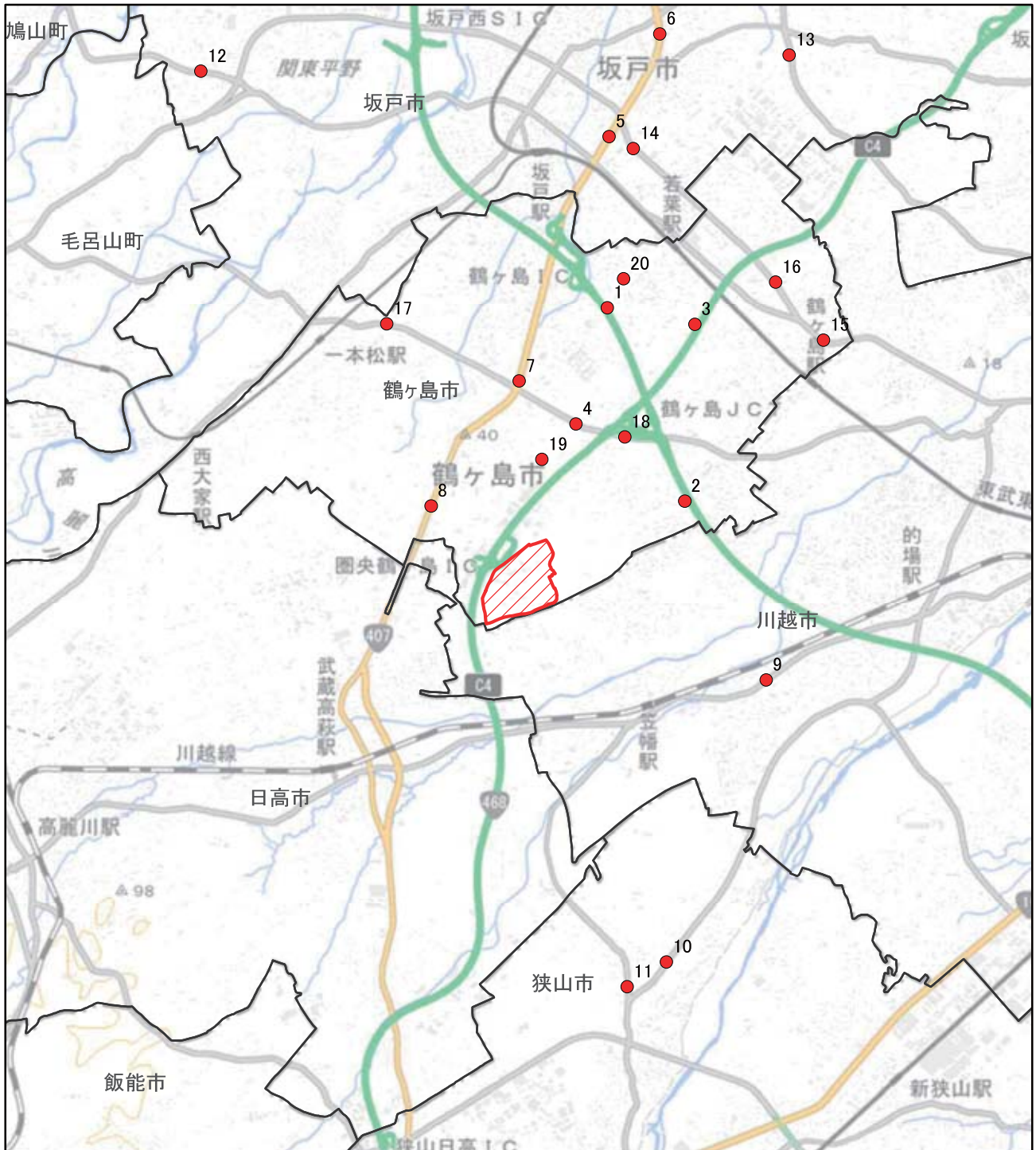



図3.2-9 自動車交通騒音調査地点位置図

凡例

● 自動車交通騒音調査地点

 対象事業実施区域



1:60,000



出典:「平成27年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」
(埼玉県ウェブサイト)より作成

(2) 公害苦情の状況

関係市における騒音に係る公害苦情件数の推移を表 3.2-15 に示す。

鶴ヶ島市の過去 5 年間の公害苦情件数は 9 件～12 件であり、ほぼ横ばいである。

表 3.2-15 公害苦情件数の推移（騒音）

単位：件

年 度	鶴ヶ島市	川越市	狭山市	坂戸市	日高市
平成 24 年度	12	47	22	14	14
平成 25 年度	9	50	18	15	19
平成 26 年度	11	39	19	12	14
平成 27 年度	12	23	11	10	16
平成 28 年度※	10				

※平成 28 年 2 月 21 日時点で公表されているもの

出典：「鶴ヶ島市の環境行政、環境報告書」（各年, 鶴ヶ島市）

「統計坂戸 平成 27 年度版」（平成 29 年 3 月, 坂戸市）

「平成 28 年度版川越市の環境行政」（平成 29 年 2 月, 川越市環境部）

「統計ひだか」（日高市ウェブサイト）

「統計さやま 平成 26 年版, 平成 28 年版」（狭山市ウェブサイト）

4) 振動の状況

(1) 振動の状況

調査対象範囲における平成 27 年度の道路交通振動の調査地点を図 3.2-10 に、調査結果を表 3.2-16 に示す。

調査対象範囲では 4 箇所測定が行われており、すべての地点で要請限度を達成している。

表 3.2-16 道路交通振動調査結果（平成 27 年度）

単位：dB

No.	調査道路	測定場所	区 域	車 線	振動レベル				
					測定値		要請限度		適 否
					昼間	夜間	昼間	夜間	
1	一般国道 407 号	坂戸市石井 2327-6	1	4	50	49	65	60	○
2		鶴ヶ島市高倉 1253-8	1	2	49	49	65	60	○
3	県道川越坂戸毛呂山線	坂戸市千代田 1-1-22	1	2	44	40	65	60	○
4	市道 547-2 号線	鶴ヶ島市三ツ木 252-1	1	2	46	36	65	60	○

出典：「平成 27 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（埼玉県ウェブサイト）

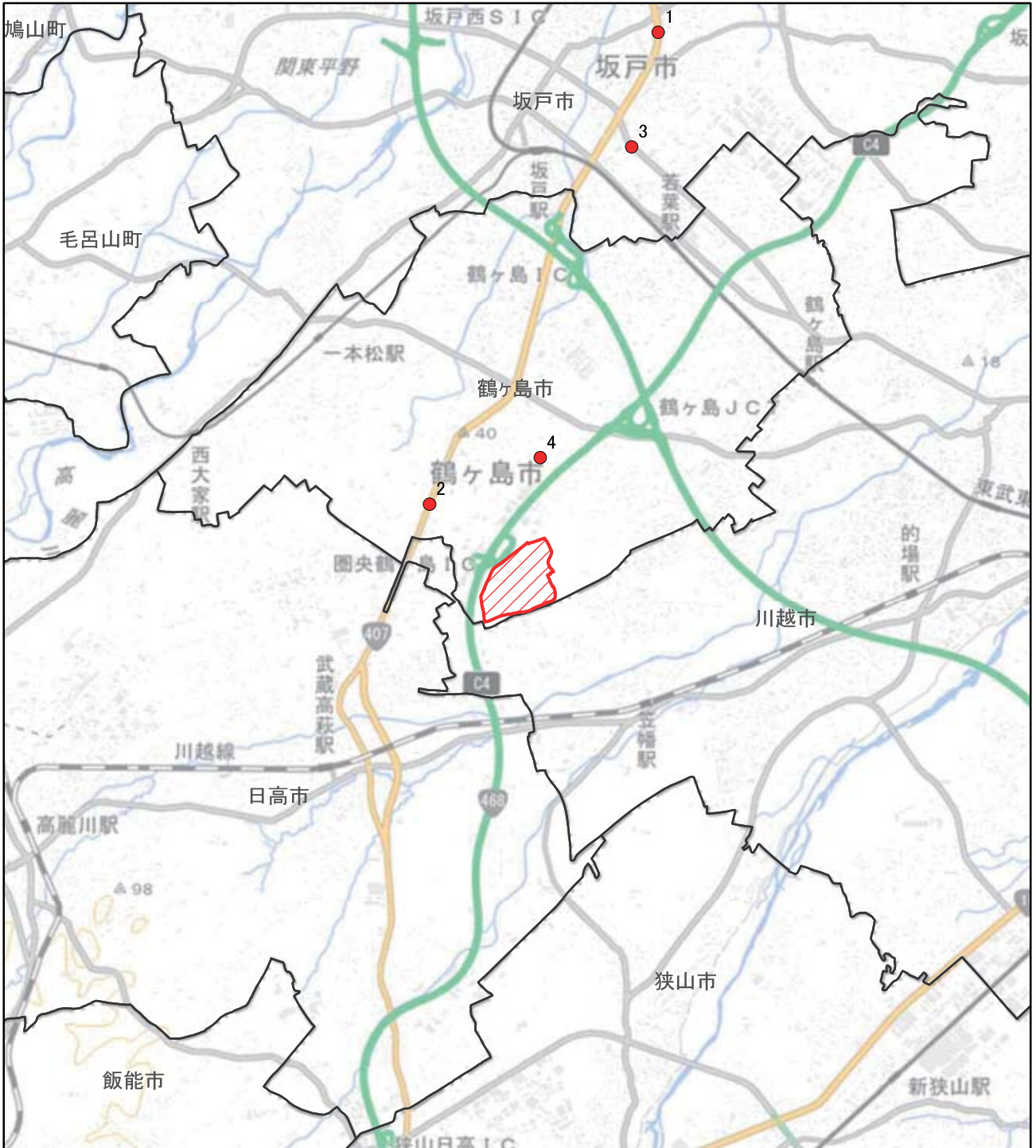



図3.2-10 道路交通振動調査地点位置図

凡例

● 道路交通振動調査地点

 対象事業実施区域

出典:「平成27年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」
(埼玉県ウェブサイト)より作成

1:60,000



(2) 公害苦情の状況

関係市における振動に係る公害苦情件数の推移を表 3.2-17 に示す。
鶴ヶ島市の過去 5 年間の公害苦情件数は 0 件～1 件と少ない。

表 3.2-17 公害苦情件数の推移（振動）

単位：件

年 度	鶴ヶ島市	川越市	狭山市	坂戸市	日高市
平成 24 年度	0	1	1	-	0
平成 25 年度	1	5	2	-	2
平成 26 年度	0	4	2	0	2
平成 27 年度	1	2	1	0	2
平成 28 年度※	1				

※平成 28 年 2 月 21 日時点で公表されているもの

出典：「鶴ヶ島市の環境行政、環境報告書」（各年、鶴ヶ島市）
「統計坂戸 平成 27 年度版」（平成 29 年 3 月、坂戸市）
「平成 28 年度版川越市の環境行政」（平成 29 年 2 月、川越市環境部）
「統計ひだか」（日高市ウェブサイト）
「統計さやま 平成 26 年版、平成 28 年版」（狭山市ウェブサイト）

5) 悪臭の状況

(1) 公害苦情の状況

関係市における悪臭に係る公害苦情件数の推移を表 3.2-18 に示す。
鶴ヶ島市の過去 5 年間の公害苦情件数は 1 件～5 件で推移している。

表 3.2-18 公害苦情件数の推移（悪臭）

単位：件

年 度	鶴ヶ島市	川越市	狭山市	坂戸市	日高市
平成 24 年度	5	24	12	1	12
平成 25 年度	4	23	9	4	8
平成 26 年度	1	22	11	2	12
平成 27 年度	4	25	7	4	7
平成 28 年度※	4				

※平成 28 年 2 月 21 日時点で公表されているもの

出典：「鶴ヶ島市の環境行政、環境報告書」（各年、鶴ヶ島市）
「統計坂戸 平成 27 年度版」（平成 29 年 3 月、坂戸市）
「平成 28 年度版川越市の環境行政」（平成 29 年 2 月、川越市環境部）
「統計ひだか」（日高市ウェブサイト）
「統計さやま 平成 26 年版、平成 28 年版」（狭山市ウェブサイト）

3.2.2 水質、底質等の状況

1) 水質（河川）の状況

(1) 生活環境の保全に関する項目

調査対象範囲の水質調査地点を図 3.2-11 に示す。

調査対象範囲では、越辺川の今川橋、高麗川の高麗川大橋の 2 箇所において水質調査が行われている。

生活環境の保全に係る項目（生活環境項目）の過去 5 年間の水質調査結果を表 3.2-19 に示す。

越辺川、高麗川はともに、すべての年度で大腸菌群数が環境基準を超過している。

大腸菌群数以外の項目については越辺川、高麗川とも環境基準を達成している。

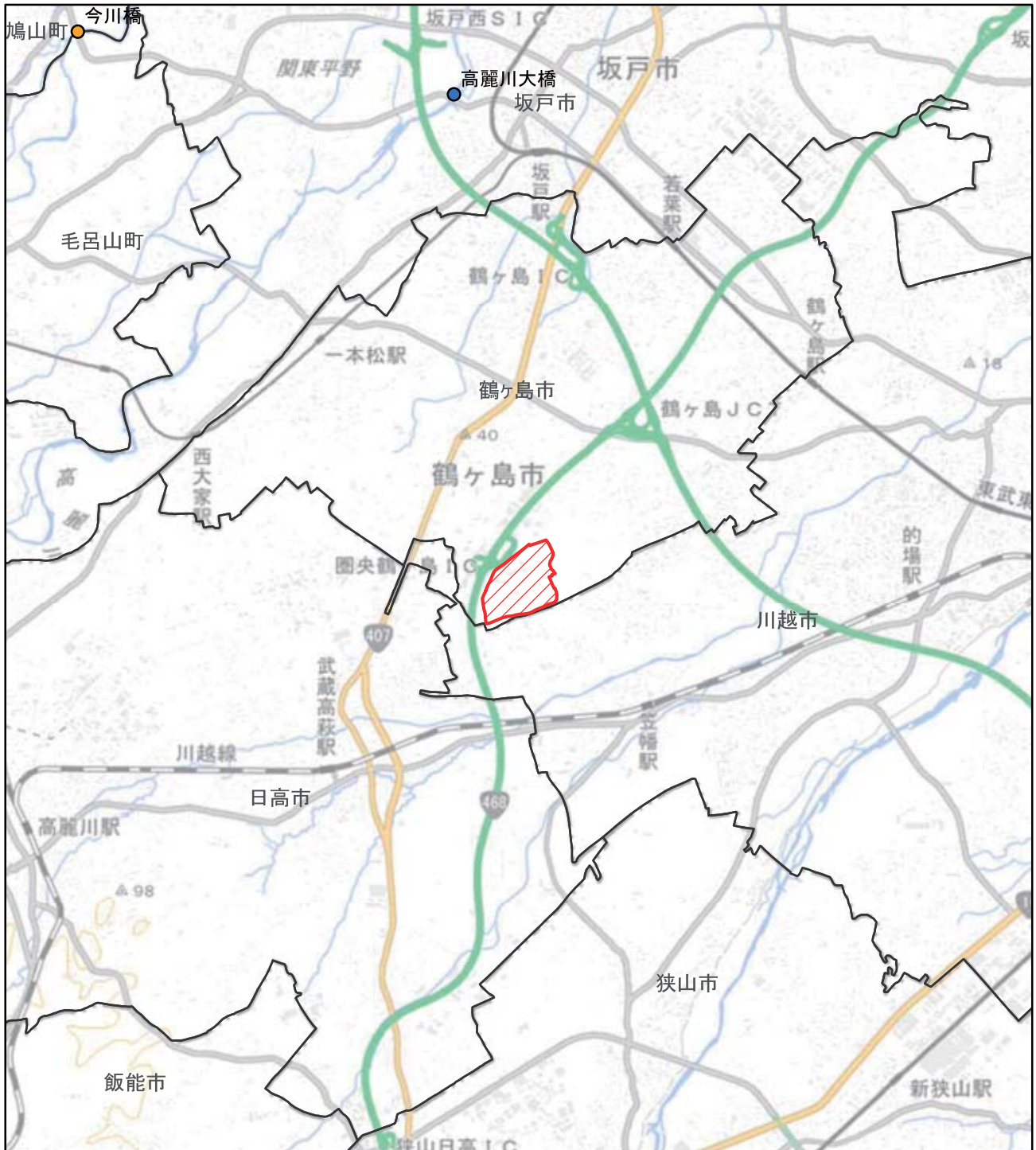


図3.2-11 水質、底質調査地点位置図

凡例

- 水質、底質調査地点
- 水質調査地点

対象事業実施区域



1:60,000



出典:「平成27年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」(埼玉県)より作成

表 3.2-19(1) 水質調査結果（生活環境項目）

越辺川（今川橋）							
項目	単位	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	環境基準 (A 類型、生物 B)
pH		7.9	7.8	8.0	7.7	8.0	6.5 以上 8.5 以下
DO	(mg/L)	11	10	11	10	11	7.5mg/L 以上
BOD	(mg/L)	0.8	0.8	1.0	1.0	0.7	2mg/L 以下
COD	(mg/L)	2.3	2.5	2.3	2.2	2.5	—
SS	(mg/L)	3	2	2	2	3	25mg/L 以下
大腸菌群数	(MPN/100mL)	19,000	20,000	14,000	8,900	10,000	1,000MPN/100mL 以下
n-ヘキサン抽出物質	(mg/L)	—	—	—	—	—	—
全窒素	(mg/L)	3.1	3.6	3.4	3.5	3.3	—
全磷	(mg/L)	0.12	0.17	0.18	0.23	0.26	—
全亜鉛	(mg/L)	0.005	0.005	0.008	0.006	0.005	0.03mg/L 以下
ノニルフェノール	(mg/L)	—	—	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0.002mg/L 以下
LAS	(mg/L)	—	—	—	0.0028	0.0008	0.05mg/L 以下

出典：「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（埼玉県環境部）

表 3.2-19(2) 水質調査結果（生活環境項目）

高麗川（高麗川大橋）							
項目	単位	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	環境基準 (A 類型、生物 B)
pH		7.6	7.6	7.6	7.6	7.5	6.5 以上 8.5 以下
DO	(mg/L)	9.7	10	10	9.6	9.8	7.5mg/L 以上
BOD	(mg/L)	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	2mg/L 以下
COD	(mg/L)	0.9	1.0	1.0	1.0	0.9	—
SS	(mg/L)	2	1	1	2	1	25mg/L 以下
大腸菌群数	(MPN/100mL)	1,400	5,100	6,600	3,800	8,300	1,000MPN/100mL 以下
n-ヘキサン抽出物質	(mg/L)	—	—	—	—	—	—
全窒素	(mg/L)	2.3	2.4	2.2	2.2	2.2	—
全磷	(mg/L)	0.021	0.025	0.019	0.023	0.034	—
全亜鉛	(mg/L)	0.002	0.001	0.002	0.002	0.003	0.03mg/L 以下
ノニルフェノール	(mg/L)	—	—	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0.002mg/L 以下
LAS	(mg/L)	—	—	—	<0.0006	<0.0006	0.05mg/L 以下

出典：「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（埼玉県環境部）

(2) 人の健康の保護に関する項目

人の健康の保護に関する項目（健康項目）の過去 5 年間の水質調査結果を表 3.2-20 に示す。

越辺川、高麗川とも、すべての項目で環境基準を達成している。

表 3.2-20(1) 水質調査結果 (健康項目)

単位: mg/L

越辺川 (今川橋)						
項目	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	環境基準
カドミウム	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	<0.1	<0.1	N. D.	N. D.	N. D.	検出されな ^い こと。
鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
砒素	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	—	—	—	—	—	検出されな ^い こと。
PCB	<0.0005	<0.0005	N. D.	N. D.	N. D.	検出されな ^い こと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
硝酸・亜硝酸性窒素	3.1	3.4	3.1	2.8	3.0	10mg/L 以下
ふっ素	0.06	0.05	0.07	0.09	0.06	0.8mg/L 以下
ほう素	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	1mg/L 以下
1,4-ジオキサソ	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下

出典: 「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」(埼玉県環境部)

表 3. 2-20(2) 水質調査結果 (健康項目)

単位: mg/L

高麗川 (高麗川大橋)						
項目	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	環境基準
カドミウム	<0.001	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	<0.1	<0.01	N. D.	N. D.	N. D.	検出されないこと。
鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
砒素	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
総水銀	<0.0005	<0.0003	<0.0005	<0.0003	<0.0003	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	—	—	—	—	—	検出されないこと。
PCB	<0.0005	<0.0003	N. D.	N. D.	N. D.	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.0020	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.0020	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.0040	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	<0.0020	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下
シマジン	<0.0003	<0.0002	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	<0.0020	<0.0002	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.02mg/L 以下
ベンゼン	<0.0010	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.01mg/L 以下
セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
硝酸・亜硝酸性窒素	1.9	2.4	1.8	2.4	1.9	10mg/L 以下
ふっ素	0.10	0.04	0.06	0.09	0.05	0.8mg/L 以下
ほう素	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下

出典: 「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」(埼玉県環境部)

(3) 水質（地下水）の状況

関係市における平成 27 年度の地下水の概況調査結果を表 3.2-21 に、地下水の継続監視調査結果を表 3.2-22 に示す。

関係市では 8 地点で概況調査が行われているが、環境基準を超過した地点はない。

継続監視調査結果では川越市の 4 地区、狭山市の 2 地区、日高市の 3 地区、坂戸市の 1 地区で環境基準を超過している。環境基準を超過していた物質は、テトラクロロエチレンと硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素であり、前者は 2 地区で、後者は 8 地区で環境基準を超過していた。

表 3.2-21 地下水の概況調査結果（平成 27 年度）

区 分		調査 地点数	四塩化炭素		チウラム		硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素		ふっ素		ほう素	
			検出 地点	基準 超過 地点	検出 地点	基準 超過 地点	検出 地点	基準 超過 地点	検出 地点	基準 超過 地点	検出 地点	基準 超過 地点
西部 地域	川越市	3	1	0	1	0	3	0	0	0	3	0
	狭山市	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	日高市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
東松山 地域	坂戸市	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
	鶴ヶ島市	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
地下水環境基準値 (mg/L)			0.002 以下		0.006 以下		10 以下		0.8 以下		1 以下	

出典：「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（埼玉県環境部）

表 3.2-22 地下水の継続監視調査結果（平成 27 年度）

単位：mg/L

地域	市町名	地区名	砒素	塩化ビニルモノマー	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチエン	トランス-1,2-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	
西部地域	川越市	牛子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	
		下松原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	
		今福	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0053	—
		今福	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.004	<0.0005	0.002	<0.0005	—
		今福	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.8
		下広谷	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.039	—
		砂新田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.6
		小堤	—	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.004	<0.0005	<0.001	<0.0005	—
		上松原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
		木野目	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
		寺尾	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
		東本宿	0.015	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	諏訪町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	
	狭山市	水野	—	<0.0002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0044	—
		水野	—	<0.0002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0042	—
		堀兼	—	<0.0002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.020	8.6
		堀兼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
		北入曾	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.3
		沢	—	<0.0002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0061	—
	日高市	中沢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
		新堀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.0
		旭ヶ丘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
		田木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.9
梅原		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	
東松山地域	坂戸市	片柳	—	<0.0002	<0.002	0.006	<0.002	0.008	<0.0005	0.007	<0.0005	—	
		多和目	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.0	
		善能寺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	
	鶴ヶ島市	羽折町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.5	

注) 網掛け：環境基準超過

出典：「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（埼玉県環境部）

2) 底質の状況

調査対象範囲における底質調査地点は図 3.2-11 に示すとおりであり、高麗川の高麗川大橋で底質調査が行われている。底質の測定結果を表 3.2-23 に示す。

底質については、「底質の暫定除去基準」で水銀、PCB について基準が定められており、過去 5 年間では水銀、PCB とも基準値を下回っている。

表 3.2-23 底質調査結果

高麗川（高麗川大橋）							底質の 暫定除去基準
項目	単位	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
カドミウム (乾泥)	(mg/kg)	0.05	0.07	0.04	0.08	0.07	—
鉛	(mg/kg)	2.5	4.0	4.8	3.5	4.9	—
砒素	(mg/kg)	0.7	2.1	1.7	2.0	2.0	—
総水銀	(mg/kg)	<0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	25ppm 以上
アルキル水銀	(mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	25ppm 以上
PCB	(mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	10ppm 以上
pH		6.6	—	7.5	7.4	7.1	—
乾燥減量 (水分)	(mg/kg)	10.7	18.0	16.0	16.0	15.0	—
色相		褐色	黒色	黒色	茶褐色	茶褐色	—
性状		—	レキ混じり砂	レキ混じり砂	レキ混じり砂	レキ混じり砂	—
臭気		無臭	弱土臭	土臭弱	弱土臭	弱土臭	—

出典：「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（各年、埼玉県環境部）

3) ダイオキシン類の状況

埼玉県では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき河川水及び河川底質の常時監視測定を行っている。

調査対象範囲では、越辺川の今川橋で調査が行われている。

平成 27 年度の調査結果は表 3.2-24 に示すとおりであり、河川水及び河川底質とも環境基準を達成している。

表 3.2-24 河川水、河川底質のダイオキシン類の調査結果（平成 27 年度）

調査地点		測定結果			環境基準
越辺川	今川橋	河川水 (pg-TEQ/L)		河川底質 (pg-TEQ/g)	
		測定値	年平均値		
				0.022	0.022

出典：「公共用水域（河川水質・河川底質）におけるダイオキシン類常時監視結果（平成 27 年度）」（埼玉県環境部）

3.2.3 土壌及び地盤の状況

1) 土壌の状況

(1) 土壌分布の状況

調査対象範囲の土壌図を図 3.2-12 に示す。

対象事業実施区域は厚層黒ボク土壌（太田ヶ谷統）、黒ボク土壌（冑山統、高倉統）である。

(2) 農用地における土壌汚染の状況

埼玉県では、昭和 46 年度から農用地の土壌汚染状況を把握するため、銅、砒素及びカドミウムについて 5 年に 1 度の調査を実施している。

昭和 54 年～平成 27 年までの土壌汚染状況の調査結果を表 3.2-25 に示す。

各項目とも、土壌の汚染に係る環境基準に適合している。

表 3.2-25 農用地の土壌汚染状況の調査結果

単位：mg/kg

調査年度		調査地点の分析測定結果											
		土壌中（乾物）								玄米中（現物）			
		銅 （基準値 125mg/kg）				砒素 （基準値 15mg/kg）				カドミウム （基準値 0.4mg/kg）			
		最高	最低	平均	調査地点	最高	最低	平均	調査地点	最高	最低	平均	調査地点
一巡目	(54~57) 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	(59~62) 全県	23.6	0.1	9.0	90	5.3	tr	1.4	90	0.30	nd	0.09	48
三巡目	(元~4) 全県	21.6	0.3	9.3	90	8.0	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	(6~9) 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.30	tr	0.06	31
五巡目	(11~14) 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2.0	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	(16~19) 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	(21~24) 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43
八巡目	(26~27) 全県	25.5	0.2	11.1	62	10.5	0.2	2.8	62	0.29	0.01	0.08	15

注) nd：検出限界以下、tr：極微量検出

出典：「平成 28 年版 埼玉県環境白書」（平成 28 年 12 月, 埼玉県）

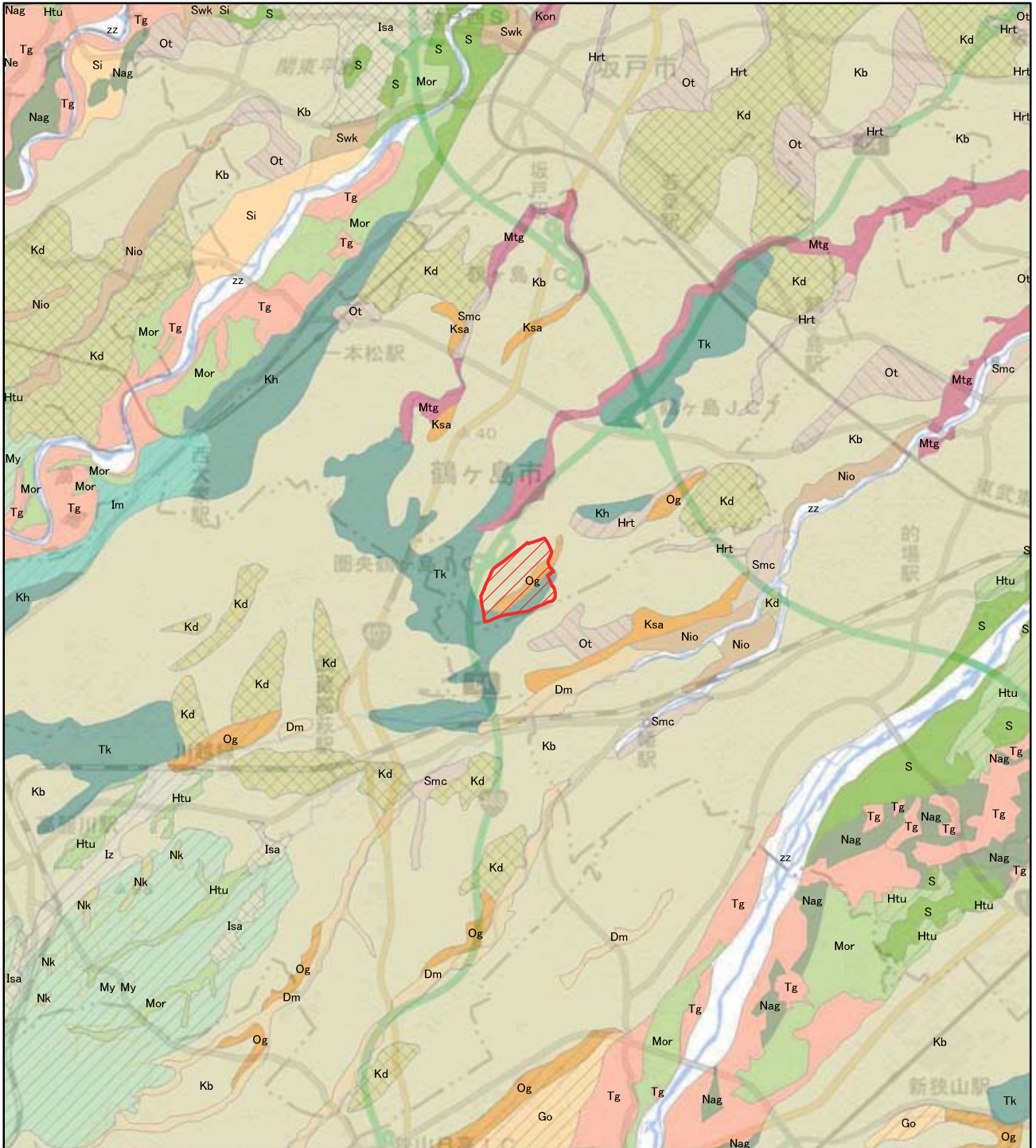





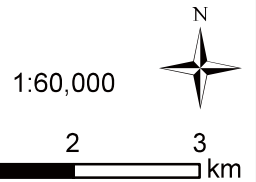
図3.2-12 土壌図

凡例

 対象事業実施区域

- | | | | |
|--|---|---|---|
| <p>【厚層黒ボク土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  大竹統(Ot)  太田ヶ谷統(Og)  笠幡統(Ksa) <p>【黒ボク土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  青山統(Kb)  高倉統(Tk)  上広谷統(Kh)  五味ヶ谷統(Go)  今福統(Im)  菅谷統(Sy) | <p>【多湿黒ボク土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  西大久保統(Nio)  道目木統(Dm) <p>【黒ボクグライ土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  新町統(Smc)  広田統(Hrt)  三ツ木統(Mtg)  児玉統(Kd)  杉の森統(Sm) <p>【淡色黒ボク土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  児玉統(Kd)  杉の森統(Sm) | <p>【乾性褐色森林土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  宮沢統(My) <p>【褐色森林土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  石坂統(Iz)  中鹿山統(Nk)  新戒統(Si)  勅使河原統(Tg) <p>【褐色低地土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  山田統(Isa)  平塚統(Htu)  森戸統(Mor) <p>【細粒灰色低地土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  平塚統(Htu)  森戸統(Mor) | <p>【灰色低地土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  清水統(S)  長瀬統(Nag)  沢木統(Swk) <p>【細粒グライ土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  山田統(Isa) <p>【低地泥炭土壌】</p> <ul style="list-style-type: none">  小沼統(Kon) |
|--|---|---|---|

出典:この地図は、国土調査による1/50,000土地分類基本調査(土壌図)「川越」埼玉県(1981)を使用し作成(複製)したものである。



(3) ダイオキシン類の状況

埼玉県では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき土壌の常時監視測定（発生源周辺状況把握調査及び一般環境把握調査）を行っている。

関係市では、一般環境把握調査を4地点で行っている。調査結果は表 3.2-26 に示すとおりであり、すべての地点で環境基準を達成している。

表 3.2-26 土壌中のダイオキシン類の調査結果（平成 28 年度）

単位：pg-TEQ/g

調査地点		測定結果	環境基準
川越市	大字笠幡	7.8	1,000 以下
	大字古谷上	1.3	
坂戸市	石井	8.8	
	新堀	7.9	

出典：「土壌常時監視結果（平成 28 年度）/ダイオキシン類」（埼玉県ウェブサイト）

(4) 公害苦情の状況

関係市における土壌汚染に係る公害苦情件数の推移を表 3.2-27 に示す。

鶴ヶ島市の過去 5 年間の公害苦情件数は 0 件～1 件と少ない。

表 3.2-27 公害苦情件数の推移（土壌汚染）

単位：件

年 度	鶴ヶ島市	川越市	狭山市	坂戸市	日高市
平成 24 年度	0	0	0	0	0
平成 25 年度	0	0	0	0	1
平成 26 年度	1	0	0	0	0
平成 27 年度	0	0	0	0	0
平成 28 年度※	0	—	—	—	—

※平成 28 年 2 月 21 日時点で公表されているもの

出典：「鶴ヶ島市の環境行政、環境報告書」（各年、鶴ヶ島市）
「統計坂戸 平成 27 年度版」（平成 29 年 3 月、坂戸市）
「平成 28 年度版川越市の環境行政」（平成 29 年 2 月、川越市環境部）
「統計ひだか」（日高市ウェブサイト）
「統計さやま 平成 26 年版、平成 28 年版」（狭山市ウェブサイト）

2) 地盤の状況

(1) 地盤沈下の状況

調査対象範囲における平成 24 年度～平成 28 年度の地盤標高の変動量の測量結果を表 3.2-28 に、水準基標設置地点を図 3.2-13 に示す。

調査対象範囲における調査開始年からの変動量は-261.6mm～-23.7mm であり、大きく沈下している地点もみられる。これは過去の渇水年における地下水依存度の上昇や平成 23 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震による影響であると想定される。

過去 5 年間の地盤標高の変動量は-6.0mm～+7.7mm であり、近年は地下水採取規制による水源転換により沈静化の傾向がみられる。

表 3.2-28 地盤標高の変動量の推移

番号	自治体名	所在地 目標	調査開始 年月日 (平成) (昭和)	各年別変動量(mm)					過去 5 年 間の変動 量(mm) 平成 24.1.1 平成 25.1.1	調査開始 年からの 変動量 (mm)	平成 29.1.1 の 真高 (T.P.) (mm)
				平成 24.1.1	平成 25.1.1	平成 26.1.1	平成 27.1.1	平成 28.1.1			
				平成 25.1.1	平成 26.1.1	平成 27.1.1	平成 28.1.1	平成 29.1.1			
1	狭山市	ロッテ 狭山工場内	13.1.1	-2	+2	+6.7	-4.1	+0.2	+2.8	-23.7	46.8161
2		自動車販売店	48.1.1	-1	+2	+9.5	-7.5	+4.5	+7.7	-261.6	54.8735
3	川越市	氷川神社境内	48.1.1	-1	0	+6.7	-3.5	+1.0	+3.6	-210.6	83.1874
4		日枝神社境内	49.1.1	-3	-4	+9.5	-7.4	+3.0	-1.4	-89.9	20.4002
5		安比奈公民館	18.1.1	-4	-1	+10.0	-8.5	+3.1	-0.3	-24.1	34.5053
6		熊野神社	18.1.1	-3	+1	+8.3	-8.0	+1.9	-0.2	-24.5	24.4488
7		みよしの 幼稚園	18.1.1	-2	-3	+9.7	-7.6	+2.9	-0.2	-23.9	24.1870
8		霞ヶ関中学校	18.1.1	-2	0	+8.2	-9.2	+2.9	-0.5	-23.9	33.4885
9	坂戸市	坂戸中学校	53.1.1	-7	-1	+4.3	-9	+6.3	-6.0	-75.8	31.4288
10		坂戸文化会館	53.1.1	-4	-3	+4.8	-9	+6.5	-4.5	-60.7	26.1907
11	鶴ヶ島市	杉下小学校	56.1.1	-3	-6	+6.8	-9.4	+6.3	-5.4	-60.4	29.4054
12	日高市	(株)水村石油・ 花蔵寺	55.1.1	-1	+2	+2.5	-3.6	-1.2	-1.1	-58.5	71.5223
13		高麗川小学校	57.1.1	+1	0	+4.4	-4.5	+1.1	+1.8	-31.5	73.1685

出典：「水準測量成果表（平成 28 年度）」（埼玉県ウェブサイト）

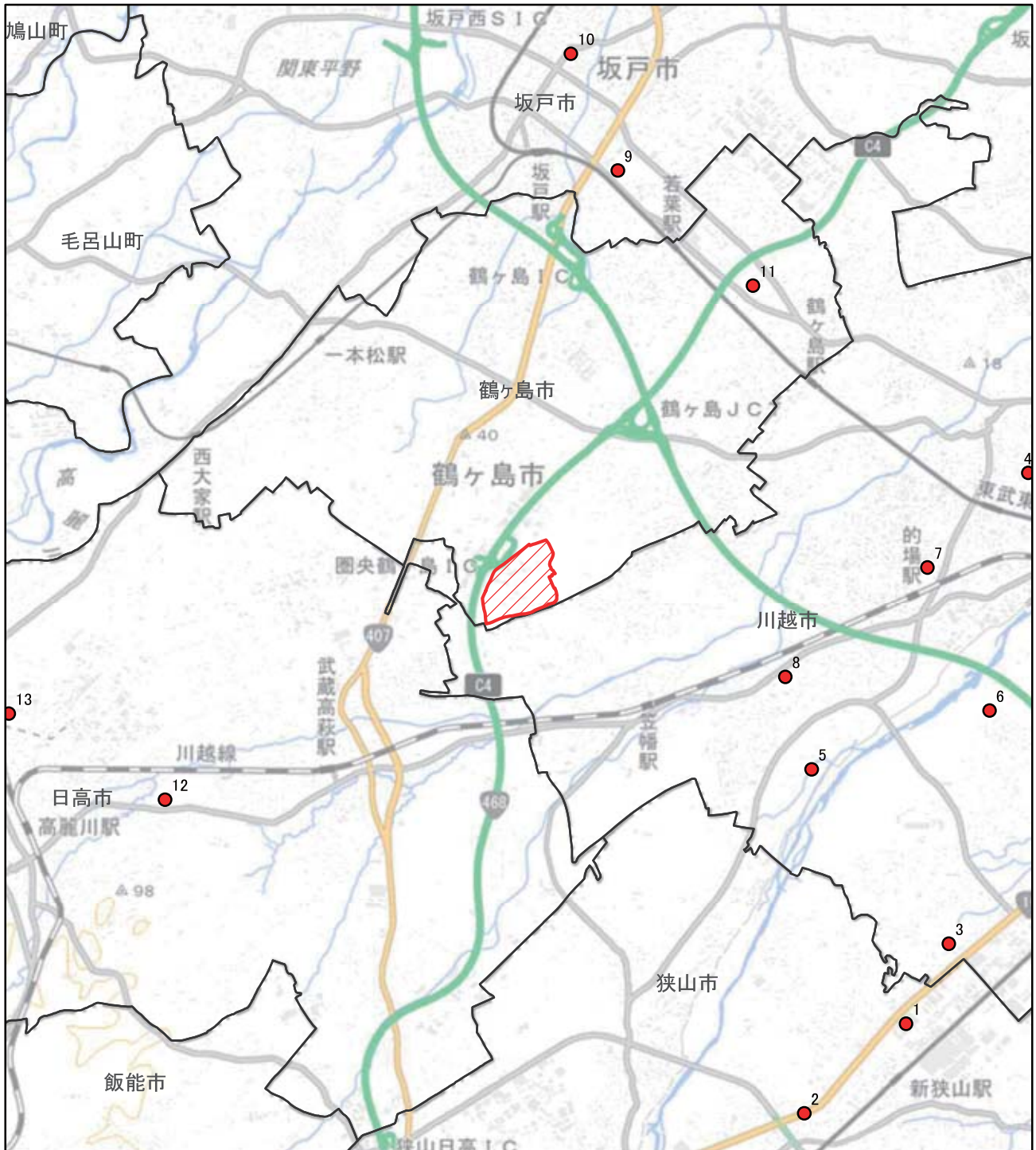



図3.2-13 水準基標設置地点位置図

凡例

● 水準基標設置地点

 対象事業実施区域

1:60,000



出典:「水準測量成果表(平成28年度)」(埼玉県)より作成

(2) 湧水の状況

調査対象範囲には、湧水保全ポータルサイト（環境省）に報告がある湧水が 5 箇所ある。その分布状況を表 3.2-29、図 3.2-14 に示す。

これらの湧水のうち、タキシマ井戸については、対象事業実施区域の東側近傍にあり、鶴ヶ島市の大谷川支流の源流となっていることが報告されている。

表 3.2-29 湧水保全ポータルサイトで報告されている主な湧水の状況

自治体	湧水の名称	所在地	概要等
鶴ヶ島市	オカネガ井戸	鶴ヶ島市高倉 1019	名称の由来については警女 <small>こね</small> の「おかね」が入水したことから。
	タキシマ井戸	鶴ヶ島市太田ヶ谷 279	旧埼玉県農業大学校（鶴ヶ島市）の湧水とあわせ、大谷川支流の源流となる湧水。
川越市	八幡神社	川越市小堤 288	八幡神社の崖下からの湧水。
坂戸市	滝不動	坂戸市四日市場	小さな泉が滝になって流れているが、飲料水として飲むことはできない。
日高市	清水の上親水公園	日高市大字田波目 798-2	地域の親水公園となっている。

出典：「湧水保全ポータルサイト」（環境省ウェブサイト）

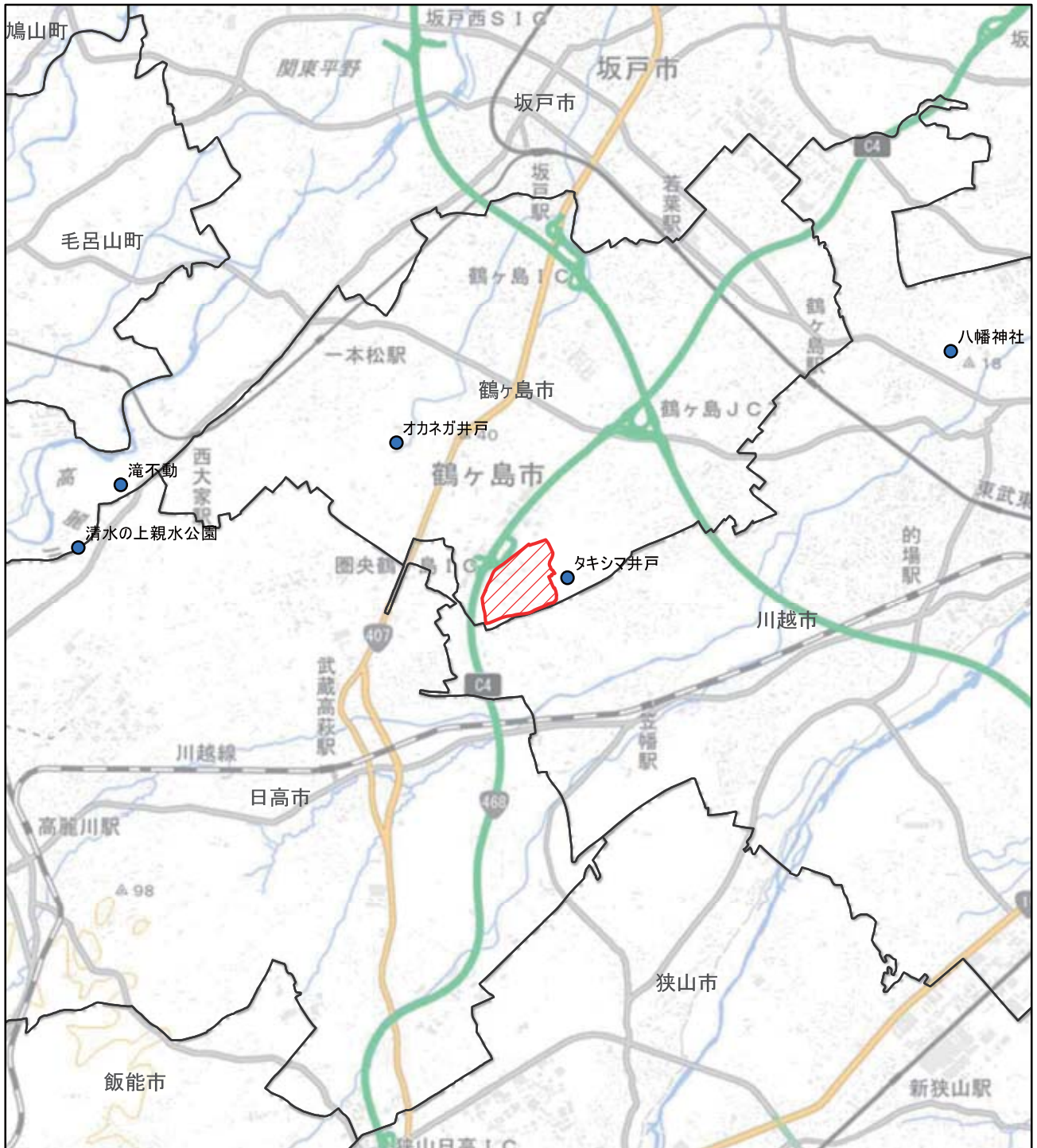



図3.2-14 主な湧水位置図

凡例

● 湧水位置

 対象事業実施区域

1:60,000



出典:「湧水保全ポータルサイト」(環境省ウェブサイト)より作成

3.2.4 一般環境中の放射性物質の状況

関係市においては図 3.2-15 に示す公共施設等で、一般環境中の空間放射線量の測定を実施している。

関係市における空間放射線量の測定結果は表 3.2-30 に示すとおりであり、各市とも特出した高い値は出現していない。

表 3.2-30(1) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（鶴ヶ島市（1/2））

単位：μSv/h

No.	測定場所	測定高さ (地上)	平成 28 年		平成 29 年	
			4 月	10 月	4 月	10 月
1	市役所（県道側の庭）	5cm	0.040	0.043	0.036	0.034
		50cm	0.040	0.039	0.036	0.036
		100cm	0.038	0.038	0.041	0.037
2	富士見中央近隣公園 (野球場セカンドベース付近)	5cm	0.040	0.047	0.045	0.051
		50cm	0.040	0.045	0.047	0.047
		100cm	0.040	0.043	0.045	0.042
3	新町中央広場（広場中央）	5cm	0.048	0.053	0.050	0.043
		50cm	0.045	0.048	0.051	0.041
		100cm	0.043	0.048	0.049	0.045
4	鶴ヶ島南近隣公園 (野球場センター付近)	5cm	0.045	0.046	0.040	0.050
		50cm	0.045	0.043	0.040	0.049
		100cm	0.045	0.043	0.043	0.051
5	脚折近隣公園 (野球場セカンドベース付近)	5cm	0.053	0.054	0.049	0.053
		50cm	0.050	0.052	0.048	0.050
		100cm	0.048	0.051	0.045	0.045
6	鶴ヶ島市運動公園 (第一駐車場東側緑地内 除染土埋却地中央)	5cm				0.046
		50cm				0.037
		100cm				0.042

出典：「大気中の放射線量の測定結果」（鶴ヶ島市ウェブサイト）

表 3.2-30(2) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（鶴ヶ島市（2/2））

単位：μSv/h

No.	測定場所	測定高さ (地上高)	平成 28 年									平成 29 年		
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
7	市役所	5cm	0.038	0.038	0.038	0.040	0.035	0.040	0.041	0.039	0.045	0.038	0.036	0.037
		50cm	0.035	0.035	0.040	0.040	0.035	0.040	0.039	0.040	0.040	0.039	0.039	0.036
		100cm	0.035	0.035	0.040	0.038	0.040	0.040	0.037	0.038	0.039	0.037	0.038	0.037
		測定高さ (地上高)	平成 29 年									平成 30 年		
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
		5cm	0.036	0.036	0.036	0.037	0.036	0.037	0.036	0.04	0.040	0.038	0.037	
		50cm	0.037	0.04	0.036	0.037	0.035	0.037	0.033	0.037	0.037	0.035	0.037	
100cm	0.036	0.038	0.039	0.035	0.036	0.038	0.036	0.036	0.036	0.036	0.04			

出典：「大気中の放射線量の測定結果」（鶴ヶ島市ウェブサイト）

表 3.2-30(3) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（川越市）

単位： $\mu\text{Sv/h}$

No.	測定場所	測定高さ (地上)	平成 28 年		平成 29 年	
			2 月	8 月	2 月	8 月
8	名細第二保育園	5cm	0.05	0.05	0.06	0.05
		50cm	0.05	0.05	0.06	0.05
9	霞ヶ関第二保育園	5cm	0.05	0.04	0.06	0.05
		50cm	0.06	0.05	0.05	0.05
10	霞ヶ関北花の丘公園	5cm	0.04	0.03	0.05	0.04
		50cm	0.04	0.04	0.05	0.03
11	児童遊園(小堤東)	5cm	0.06	0.06	0.06	0.06
		50cm	0.05	0.06	0.07	0.05
12	大東西中学校	5cm	0.05	0.04	0.05	0.04
		50cm	0.05	0.04	0.05	0.05

出典：「大気中放射線量及び土壌中放射性物質の定点モニタリング」（川越市）

表 3.2-30(4) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（狭山市）

単位： $\mu\text{Sv/h}$

No.	測定地点名	測定 高さ	平成 28 年		平成 29 年	
			1 月	7 月	1 月	7 月
13	智光山公園こども動物園	5cm	0.032	0.041	0.041	0.038
		50cm	0.035	0.040	0.040	0.036
		100cm	0.035	0.036	0.038	0.031
14	下奥富運動公園	5cm	0.072	0.073	0.071	0.068
		50cm	0.070	0.067	0.070	0.068
		100cm	0.065	0.063	0.064	0.066
15	新狭山地区センター	5cm	0.070	0.082	0.084	0.075
		50cm	0.075	0.070	0.082	0.072
		100cm	0.069	0.070	0.077	0.068
16	愛宕神社児童遊園地	5cm	0.078	0.067	0.066	0.062
		50cm	0.069	0.059	0.058	0.058
		100cm	0.063	0.057	0.057	0.052

出典：「空間放射線量測定」（狭山市ウェブサイト）

表 3.2-30(5) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（坂戸市）

単位：μSv/h

No.	測定地点名	測定高さ (地上高)	平成 28 年				平成 29 年		
			1 月	4 月	7 月	10 月	1 月	4 月	10 月
17	坂戸市役所	100cm	0.071	0.063	0.058	0.067	0.073	0.065	0.064
18	坂戸小学校	50cm	0.036	0.041	0.054	0.058	0.056		
19	三芳野小学校	50cm	0.058	0.054	0.045	0.050	0.043	0.047	0.05
20	入西小学校	50cm	0.056	0.051	0.047	0.051	0.043	0.048	0.045
21	大家小学校	50cm	0.048	0.050	0.045	0.052	0.042	0.055	0.047
22	城山小中一貫校	50cm	0.065	0.044	0.038	0.049	0.044	0.041	0.055
23	浅羽野小学校	50cm	0.041	0.048	0.043	0.048	0.057		
24	住吉中学校	100cm	0.036	0.042	0.044	0.065	0.055		
25	若宮中学校	100cm	0.038	0.043	0.040	0.049	0.044		
26	東坂戸保育園	50cm	0.049	0.055	0.052	0.058	0.056	0.06	0.05
27	千代田保育園	50cm	0.043	0.053	0.046	0.044	0.039		
28	大安公園（泉町）	50cm	0.064	0.071	0.061	0.058	0.076		
29	四日市場レク	50cm	0.044	0.053	0.051	0.050	0.051		
30	市民健康センター	50cm	0.058	0.053	0.051	0.051	0.049	0.051	0.055

出典：「各施設の空間放射線量」（坂戸市ウェブサイト）

表 3.2-30(6) 一般環境中の空間放射線量の測定結果（日高市）

単位：μSv/h

No.	測定場所	測定高さ (地上高)	平成 28 年									平成 29 年		
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
31	市役所 敷地内 (庁舎東側 駐車場)	50cm	0.07	0.07	0.06	0.07	0.06	0.06	0.06	0.08	0.09	0.06	0.07	0.07
			平成 29 年									平成 30 年		
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
			0.07	0.07	0.07	0.06	0.08	0.07	0.07	0.07	0.06	0.06	0.06	

出典：「市役所敷地内（庁舎東側駐車場）における空間放射線量率の定点測定結果」（日高市ウェブサイト）

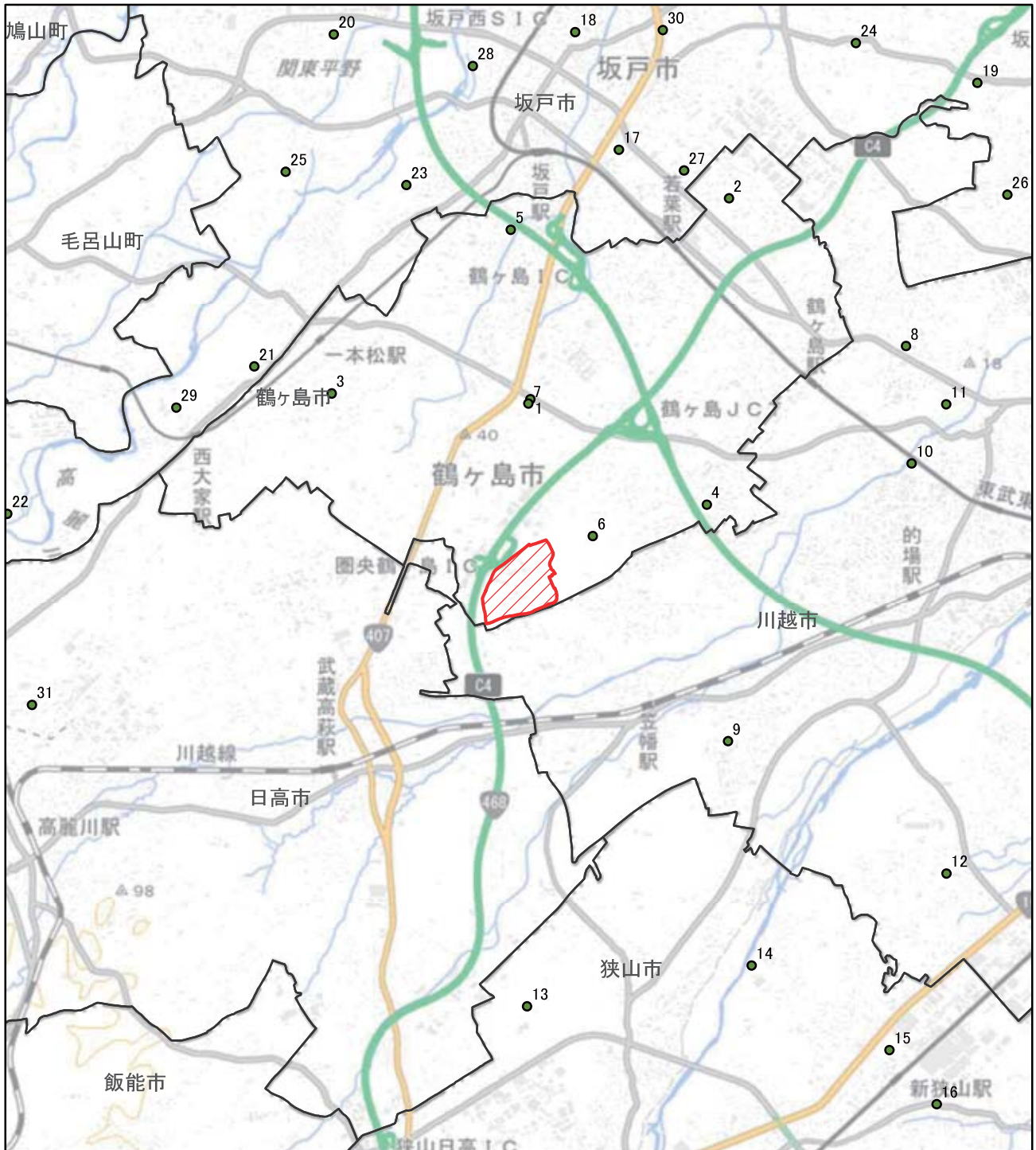



図3.2-15 空間放射線量測定地点位置図

凡例

● 放射線測定位置

 対象事業実施区域

出典：「鶴ヶ島市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「川越市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「狭山市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「坂戸市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「日高市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）

1:60,000



3.2.5 地形及び地質の状況

1) 地形の状況

調査対象範囲の地形分類図を図 3.2-16 に示す。

調査対象範囲の地形は、主に火山灰台地と扇状地であり、扇状地は高麗川、小畔川、入間川などの河川に沿って分布している。

なお、調査対象範囲の西側には丘陵地が、北側には三角州が、高麗川、入間川などの河川には河原がみられる。

対象事業実施区域は火山灰台地に位置している。

2) 地質の状況

調査対象範囲の表層地質図を図 3.2-17 に示す。

調査対象範囲の地質は主に火山性堆積物（ローム）と未固結堆積物（砂泥、泥、礫）であり、未固結堆積物は高麗川、小畔川、入間川などの河川に沿って分布している。

対象事業実施区域は火山性堆積物に位置している。

3) 貴重な地形・地質の状況

調査対象範囲には、日本の地形レッドデータブック等に記載のある貴重な地形・地質は存在しない。

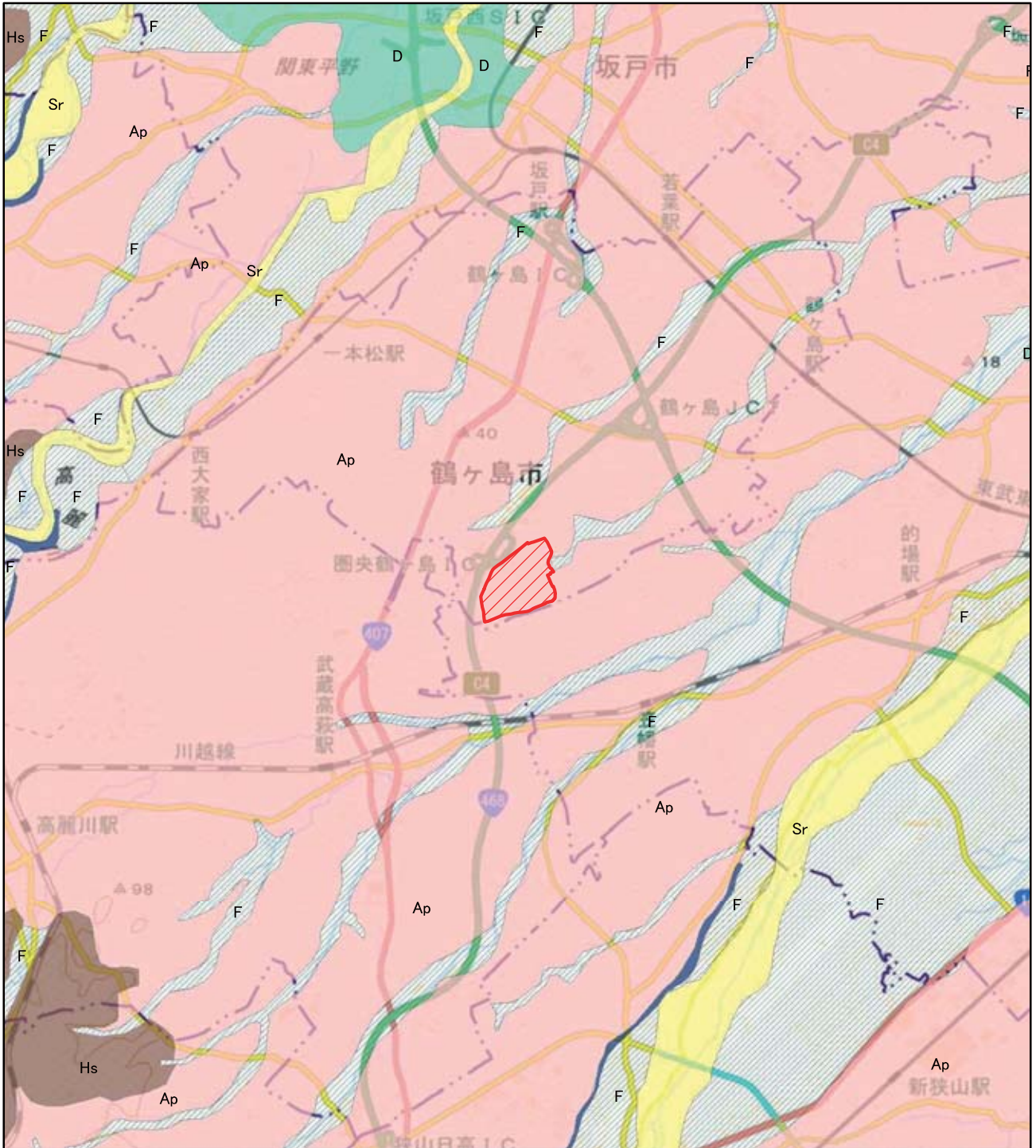



図3.2-16 地形分類図



凡例

 対象事業実施区域

【山地・丘陵地】

【台地・低地】

【その他】

-  山麓地(Mf)
-  丘陵地(Hs)

-  火山灰台地(Ap)
-  扇状地(F)
-  三角州(D)
-  河原(Sr)

 崖

1:60,000



出典:この地図は、国土調査による1/50,000土地分類基本調査(地形分類図)「川越」埼玉県(1981)を使用し作成(複製)したものである。



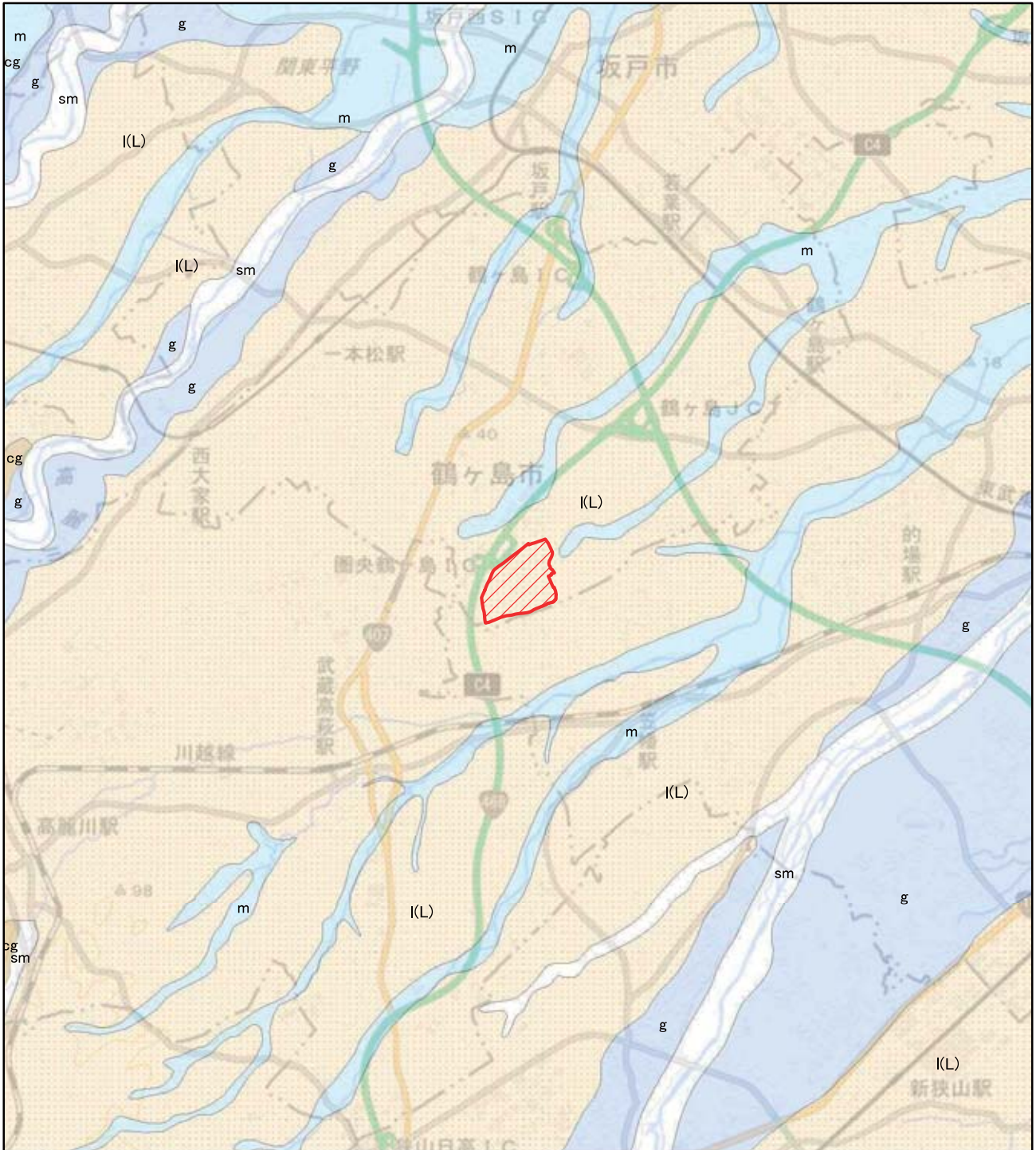




図3.2-17 表層地質図


凡例

 対象事業実施区域


【未固結堆積物】

 砂泥(sm)

 泥(m)

 礫(g)

【火山性堆積物】

 ローム(I(L))

【固結堆積物】

 礫岩(cg)

1:60,000



出典:この地図は、国土調査による1/50,000土地分類基本調査(表層地質図)「川越」埼玉県(1981)を使用し作成(複製)したものである。



3.2.6 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況

調査対象範囲の動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況について、表 3.2-31 に示す文献を用いて把握した。

これらの文献により得られた情報をもとに、表 3.2-32 に示す選定基準により重要な種を選定した。

表 3.2-31 既存文献と文献に掲載されている項目

No.	文献名	動物の生息							植物の生育、植生、緑の量		
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	底生動物	植物	植生	緑の量
1	「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」 (平成 20 年, 埼玉県)	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
2	「第 5 回自然環境保全基礎調査」 (平成 9・10 年度, 環境省)	○			○	○	○	—	—	—	—
3	「鶴ヶ島の動物」 (平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)	○	○	○		○	○	—	—	—	—
4	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」 (平成 24 年, 埼玉県)	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—
5	「鶴ヶ島の植物」 (平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—
6	「第 6 回自然環境保全基礎調査」 (平成 11～16 年度, 環境省) 「第 7 回自然環境保全基礎調査」 (平成 17～24 年度, 環境省)	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○

注) 文献名のNo.は、以下、個別出現状況の表中「文献No.」の番号に該当する。

表 3.2-32 重要な種の選定に用いた基準

No.	出典	基準
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年, 法律第 214 号)	特天：特別天然記念物、天：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年, 法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種、 国際：国際希少野生動植物種、 緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2017」 (平成 29 年, 環境省)	EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、 CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、 VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、 DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成 12 年, 埼玉県条例第 11 号)	指定：県内希少野生動植物種指定
⑤	「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」 (平成 20 年, 埼玉県) の低地帯 (荒川以西) の地帯区分 (以下：低地帯) 「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」 (平成 24 年, 埼玉県)	EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、 EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、 NT (1, 2)：準絶滅危惧、DD：情報不足、 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注 1) 以下、本文中においてはレッドデータブックを「RDB」、レッドリストを「RL」と表記する。

注 2) 重要な種の選定に用いた基準のNo.は、以下、個別出現状況の表中「重要種選定基準」の番号に該当する。

1) 動物の生息状況

① 哺乳類

調査対象範囲の哺乳類の確認状況を表 3.2-33 に示す。

調査対象範囲では 7 目 10 科 20 種の哺乳類が確認されている。

対象事業実施区域のある鶴ヶ島市の情報が掲載されている「鶴ヶ島の動物」では、鶴ヶ島市において 13 種の哺乳類の確認が報告されている。

このうち重要な種としては、埼玉県 RDB で絶滅危惧 II 類となっているホンドキツネなどがあげられる。

表 3.2-33 調査対象範囲における哺乳類の確認状況

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準						
				1	2	3	①	②	③	④	⑤		
1	モグラ (食虫)	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ	○		○						NT2	
2		モグラ	ホンシュウヒミズ	○	○							NT2	
3			アズマモグラ			○							
4	コウモリ (翼手)	ヒナコウモリ	アブラコウモリ			○							
5			ヤマコウモリ	○					VU			VU	
6	サル (霊長)	オナガザル	ホンダザル	○	○							EX	
7	ウサギ	ウサギ	キュウシュウノウサギ	○	○	○						NT2	
8	ネズミ (齧歯)	リス	ニホンリス	○	○							EX	
9			ニッコウムササビ	○	○							EX	
10		ネズミ	ハタネズミ			○							
11			ホンダアカネズミ	○	○	○							
12			ホンシュウカヤネズミ	○		○							NT1,2
13			ハツカネズミ			○							
14			クマネズミ			○							
15			ドブネズミ			○							
16	ネコ (食肉)	イヌ	ホンダタヌキ	○	○	○						NT2	
17			ホンドキツネ	○	○	○						VU	
18		イタチ	ホンDOIタチ	○	○	○							
19			ニホンアナグマ	○								EX	
20	ウシ (偶蹄)	イノシシ	ニホンイノシシ		○								
合計 7目 10科 20種				13	10	13	0	0	1	0	11		

注 1) 分類、配列等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年, 公益財団法人リバーフロント研究所) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年, 埼玉県)

2: 「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省)

3: 「鶴ヶ島の動物」(平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

② 鳥類

調査対象範囲の鳥類の確認状況を表 3.2-34 に示す。

調査対象範囲では 16 目 43 科 151 種の鳥類が確認されている。

対象事業実施区域のある鶴ヶ島市の情報が掲載されている「鶴ヶ島の動物」では、鶴ヶ島市において 121 種の鳥類の確認が報告されている。

このうち重要な種としては、国の天然記念物に指定されているシラコバトや、国の天然記念物、国内希少野生動物種に指定されているオジロワシをはじめ、国内希少野生動物種、環境省 RL で絶滅危惧 IA 類となっているシマアオジ、埼玉県 RDB で絶滅危惧 IA 類となっているヒクイナ、サシバ、ヤマガラ、トラツグミなどがあげられる。

表 3.2-34(1) 調査対象範囲における鳥類の確認状況 (1/3)

No.	目名	科名	種名	文献No.		重要種選定基準							
				1	3	①	②	③	④	⑤			
										繁殖鳥	越冬鳥		
1	キジ	キジ	ウズラ	○				VU			EN	EN	
2			キジ		○								
3	カモ	カモ	ヒシクイ	○		天		VU				CR	
4			マガン	○		天		NT				CR	
5			コハクチョウ	○									NT1
6			オオハクチョウ	○									CR
7			オシドリ	○	○					DD			EN
8			ヨシガモ		○								
9			ヒドリガモ		○								
10			マガモ		○								
11			カルガモ		○								
12			オナガガモ		○								
13			トモエガモ	○	○					VU			VU
14			コガモ		○								
15			アカハジロ	○						DD			VU
16					キンクロハジロ		○						
17					スズガモ		○						
18	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		○								
19	ハト	ハト	キジバト		○								
20			シラコバト	○	○	天		EN		VU	VU		
21			アオバト		○								
22	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	○	○			NT		VU			
23			ミゾゴイ	○				VU		EX			
24			ゴイサギ		○								
25			ササゴイ	○	○						EN		
26			アマサギ		○								
27			アオサギ		○								
28			ダイサギ		○								
29			チュウサギ	○	○				NT		VU		
30			コサギ		○								
31				トキ	トキ	○		特天	国内	EW		EX	
32	ツル	クイナ	クイナ	○							VU		
33			ヒクイナ	○	○			NT		CR			
34			バン	○	○					VU			
35			オオバン	○						CR			

表 3.2-34(2) 調査対象範囲における鳥類の確認状況 (2/3)

No.	目名	科名	種名	文献No.		重要種選定基準					
				1	3	①	②	③	④	⑤	
								繁殖鳥	越冬鳥		
36	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		○						
37			ツツドリ		○						
38			カッコウ		○						
39	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○			NT		EX	
40	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ		○						
41			ヒメアマツバメ		○						
42	チドリ	チドリ	タゲリ	○	○						NT2
43			ケリ	○				DD			EN
44			イカルチドリ	○	○					NT1	
45			シロチドリ	○				VU		LP	
46		シギ	ヤマシギ	○	○						NT2
47			タシギ		○						
48			クサシギ		○						
49			イソシギ	○						NT2	
50		タマシギ	タマシギ	○				VU		CR	EN
51		カモメ	ユリカモメ		○						
52			コアジサシ	○				VU		CR	
53	タカ	タカ	ハチクマ	○				NT		EX	
54			トビ		○						
55			オジロワシ	○		天	国内	VU			CR
56			チュウヒ	○			国内	EN			EN
57			ハイロチュウヒ	○							EN
58			ツミ	○	○					NT2	
59			ハイタカ	○				NT			VU
60			オオタカ	○	○			NT		VU	NT2
61			サシバ	○	○			VU		CR	
62			ノスリ	○	○						VU
63	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○						EX	NT2
64			フクロウ	○	○					EN	NT2
65			アオバズク	○	○					VU	
66			トラフズク	○							EN
67			コミミズク	○							VU
68	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○	○					NT2	
69	キツツキ	キツツキ	アリスイ	○							NT2
70			コゲラ		○						
71			アカゲラ		○						
72			アオゲラ	○	○					NT2	
73	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○	○					NT2	
74			ハヤブサ	○			国内	VU			VU
75	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○			VU		EX	
76		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○					EX	
77		モズ	チゴモズ	○	○			CR		EX	
78			モズ		○						
79			アカモズ	○				EN		CR	
80			オオモズ		○						
81		カラス	カケス		○						
82			オナガ		○						
83			ハシボソガラス		○						
84			ハシブトガラス		○						
85		キクイタダキ	キクイタダキ		○						
86		シジュウカラ	ヤマガラ	○	○					CR	
87			ヒガラ		○						
88			シジュウカラ		○						
89		ヒバリ	ヒバリ		○						
90		ツバメ	ツバメ		○						
91			コシアカツバメ	○						VU	
92			イワツバメ		○						
93		ヒヨドリ	ヒヨドリ		○						
94		ウグイス	ウグイス	○	○					NT2	
95			ヤブサメ		○						
96		エナガ	エナガ	○	○					VU	

表 3.2-34(3) 調査対象範囲における鳥類の確認状況 (3/3)

No.	目名	科名	種名	文献No.		重要種選定基準								
				1	3	①	②	③	④	⑤				
										繁殖鳥	越冬鳥			
97	スズメ	ムシクイ	メボソムシクイ		○									
98			エゾムシクイ			○								
99			センダイムシクイ				○							
100		メジロ	メジロ			○								
101		センニュウ	オオセッカ		○			国内	EN			CR		
102		ヨシキリ	オオヨシキリ			○								
103			コヨシキリ		○							VU		
104		セッカ	セッカ			○								
105		ミソサザイ	ミソサザイ			○								
106		ムクドリ	ムクドリ			○								
107			コムクドリ			○								
108		ヒタキ	トラツグミ		○	○							CR	
109			クロツグミ		○	○							EX	
110			シロハラ				○							
111			アカハラ				○							
112			ツグミ				○							
113			コルリ				○							
114			ルリビタキ			○	○							NT2
115			ジョウビタキ				○							
116			ノビタキ				○							
117	エゾビタキ					○								
118	コサメビタキ			○	○							EX		
119	キビタキ				○									
120	オオルリ				○									
121	イワヒバリ	カヤクグリ			○									
122	スズメ	ニューナイスズメ		○								VU		
123		スズメ				○								
124	セキレイ	キセキレイ			○									
125		ハクセキレイ			○									
126		セグロセキレイ				○								
127		ビンズイ				○								
128		タヒバリ				○								
129	アトリ	アトリ			○									
130		カワラヒワ			○									
131		マヒワ				○								
132		ベニヒワ				○								
133		ベニマシコ			○	○							NT2	
134		ウソ				○								
135		シメ				○								
136		イカル				○								
137	ホオジロ	ホオジロ		○	○							NT2		
138		ホオアカ		○	○							EX		
139		カシラダカ				○								
140		ミヤマホオジロ		○	○							NT1		
141		シマアオジ				○		国内	CR					
142		アオジ				○								
143		クロジ		○	○							VU		
144		コジュリン		○	○				VU			VU		
145	オオジュリン				○									
146	キジ	キジ	コジュケイ		○									
147			ニワトリ			○								
148			コウライキジ			○								
149	カモ	カモ	アヒル		○									
150	ハト	ハト	カワラバト		○									
151	スズメ	ムクドリ	マキエテリムク的一种		○									
合計 16目 43科 151種				67	121	5	6	30	0	40	33			

注1) 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年, 日本鳥学会)に準拠した。

注2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成20年, 埼玉県)

3: 「鶴ヶ島の動物」(平成3年3月, 鶴ヶ島町)

注3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県RDBのうちの「低地帯」に該当するものである。

③ 爬虫類

調査対象範囲の爬虫類の確認状況を表 3.2-35 に示す。

調査対象範囲では 2 目 8 科 14 種の爬虫類が確認されている。

このうち重要な種としては、環境省 RL で準絶滅危惧、埼玉県 RDB で絶滅危惧 II 類となっているニホンイシガメなどがあげられる。

表 3.2-35 調査対象範囲における爬虫類の確認状況

No.	目名	科名	種名	文献No.		重要種選定基準					
				1	2	①	②	③	④	⑤	
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○				NT		VU	
2			クサガメ	○	○					NT2	
3		スッポン	ニホンスッポン	○				DD		NT1,2	
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	○						NT1,2	
5		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○					NT1,2	
6		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○						
7		タカチホヘビ	タカチホヘビ	○						EN	
8		ナミヘビ	シマヘビ		○						
9			アオダイショウ		○						NT2
10			ジムグリ		○						VU
11			シロマダラ		○						EN
12			ヒバカリ		○						NT2
13			ヤマカガシ		○	○					NT2
14	クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○					NT2		
合計 2目 8科 14種				12	6	0	0	2	0	12	

注 1) 分類、配列等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年, 公益財団法人リバーフロント研究所) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年, 埼玉県)

2: 「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

④ 両生類

調査対象範囲の両生類の確認状況を表 3.2-36 に示す。

調査対象範囲では 2 目 6 科 10 種の両生類が確認されている。

このうち重要な種としては、環境省 RL で絶滅危惧 II 類、埼玉県 RDB の絶滅危惧 IB 類となっているトウキョウサンショウウオなどがあげられる。

表 3.2-36 調査対象範囲における両生類の確認状況

No.	目名	科名	種名	文献No.		重要種選定基準				
				1	2	①	②	③	④	⑤
1	有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ	○	○			VU		EN
2		イモリ	アカハライモリ	○	○			NT	指定	EX
3	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル		○					
4		アマガエル	ニホンアマガエル		○					
5		アカガエル	ニホンアカガエル	○	○					NT2
6			ヤマアカガエル		○					
7			トウキョウダルマガエル	○				NT		NT2
8			ツチガエル	○						VU
9		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○					NT2
10			カジカガエル	○	○					EN
合計 2目 6科 10種				7	8	0	0	3	1	7

注 1) 分類、配列等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年, 公益財団法人リバーフロント研究所) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年, 埼玉県)

2: 「第 5 回 自然環境基礎調査」(環境省)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

⑤ 魚類

調査対象範囲の魚類の確認状況を表 3.2-37 に示す。

調査対象範囲では 9 目 17 科 52 種の魚類が確認されている。

対象事業実施区域のある鶴ヶ島市の情報が掲載されている「鶴ヶ島の動物」では、鶴ヶ島市において 11 種の魚類の確認が報告されている。

このうち重要な種としては、環境省 RL の絶滅危惧 IB 類、埼玉県 RDB の絶滅危惧 IA 類となっているホトケドジョウ、環境省 RL の絶滅危惧 II 類、埼玉県 RDB の準絶滅危惧となっているキンブナなどがあげられる。

表 3.2-37(1) 調査対象範囲における魚類の確認状況(1/2)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準					
				1	2	3	①	②	③	④	⑤	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	○	○				VU		EN	
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		○				EN			
3	コイ	コイ	コイ		○	○						
4			ゲンゴロウブナ		○	○			(EN)			
5			キンブナ	○	○	○			VU		NT2	
6			ギンブナ		○	○						
7			ヤリタナゴ	○					NT		CR	
8			アカヒレタビラ	○					EN		DD	
9			ゼニタナゴ	○					CR		EX	
10			タイリクバラタナゴ		○							
11			ハス		○				(VU)			
12			オイカワ		○	○						
13			カワムツ属		○							
14			アブラハヤ		○							
15			マルタ	○							NT2	
16			ウグイ		○							
17			モツゴ		○	○						
18			ヒガイ類		○							
19			タモロコ		○							
20			ゼゼラ		○				(VU)			
21			カマツカ		○							
22			ツチフキ		○				(EN)			
23			ニゴイ		○							
24			スゴモロコ		○				(VU)			
25			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ		○	○			DD	
26					ヒガシシマドジョウ	○	○					EN
27					ホトケドジョウ	○	○	○			EN	CR
28	ナマズ	ギギ	ギバチ	○	○			VU	VU			
29		ナマズ	ナマズ	○	○	○				NT2		
30	サケ	キュウリウオ	ワカサギ		○							
31		アユ	アユ		○							
32		サケ	アメマス (エゾイワナ)		○							
33			アメマス類		○				DD*			
34			ニジマス		○							
35		サクラマス (ヤマメ)		○				NT				
36	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	○	○			VU	VU			
37		サヨリ	クルマサヨリ	○				NT	DD			
38	トゲウオ	トゲウオ	ムサシトミヨ	○				CR	指定 EX			
39	カサゴ	カジカ	カジカ		○			NT				
40			カジカもしくはウツセミカジカ (回遊型)		○			NT or EN				

表 3.2-37(2) 調査対象範囲における魚類の確認状況(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準					
				1	2	3	①	②	③	④	⑤	
41	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル		○							
42			オオクチバス		○	○						
43		ドンコ	○								DD	
44		ハゼ	ウキゴリ	○								DD
45			ピリンゴ	○								VU
46			ムサシノジュズカケハゼ	○						EN		NT2
47			ムサシノジュズカケハゼもしくはジュズカケハゼ		○					EN or NT		NT2 or 未掲載
48			アシシロハゼ	○								DD
49			ゴクラクハゼ	○								DD
50			ヨシノボリ属		○							
51			ヌマチチブ		○							
52		タイワンドジョウ	カムルチー		○	○						
合計 9目 17科 52種				19	40	11	0	0	23	1	20	

注 1) 分類、配列等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年, 公益財団法人リバーフロント研究所) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年, 埼玉県)

2: 「第 5 回 自然環境基礎調査」(環境省)

3: 「鶴ヶ島の動物」(平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

注 4) アメマス類、カジカもしくはウツセミカジカ(回遊型)、ムサシノジュズカケハゼもしくはジュズカケハゼについては、同類の種が出ている場合は集計から外した。

また、アメマス類はニッコウイワナの可能性があることから、重要種選定基準③においてニッコウイワナのランクを示した(※)。

なお、ヨシノボリ属(文献ではヨシノボリ類として記載)については、一般的に同属のゴクラクハゼとは区別されるため、1 種として集計した。

⑥ 昆虫類

調査対象範囲の昆虫類の確認状況を表 3.2-38 に示す。

調査対象範囲周辺では 14 目 122 科 541 種の昆虫類が確認されている。

このうち重要な種としては、埼玉県 RDB で絶滅危惧種となっているホソミイトトンボ、メガネサナエ、トラフトンボ、オオキトンボ、ウラゴマダラシジミ、オオミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、コツバメなどがあげられる。

対象事業実施区域のある鶴ヶ島市の情報が掲載されている「鶴ヶ島の動物」では、鶴ヶ島市において 332 種の昆虫類の確認が報告されているが、この中においては重要な種としてあげられるものはない。

表 3.2-38(1) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(1/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準							
				1	2	3	①	②	③	④	⑤			
1	トビムシ	ムラサキトビムシ	ウスズミトビムシ			○								
2			<i>Hypogastrura (Ceratophysella)</i> 亜属の一種			○								
3		ヤマトトビムシ	ヤマトシリトゲトビムシ			○								
4			<i>Odontella</i> 属の一種			○								
5			ヤマトトビムシ亜科の一種			○								
6			<i>Lobella (Lobella)</i> 亜属の一種			○								
7		シロトビムシ	ヤマシロトビムシ			○								
8			<i>Onychiurus</i> 属の数種			○								
9			ホソシロトビムシ			○								
10		ツチトビムシ	ベソツカキトビムシ			○								
11			フタツメフォルソムトビムシ			○								
12			<i>Folsomides</i> 属の一種			○								
13			ヒメフォルソムトビムシ			○								
14			メナシツチトビムシ			○								
15			コツチトビムシ			○								
16			<i>Desoria trispinata</i>			○								
17		トゲトビムシ	ヒメトゲトビムシ			○								
18		アヤトビムシ	<i>Entomobrya</i> 属の数種			○								
19			<i>Homidia nipponica</i>			○								
20			カギツメハゴロモトビムシ			○								
21			<i>Sinella (Coecobrya)</i> 亜属の一種			○								
22			<i>Willowsia platani</i>			○								
23			ミジントビムシ	ミジントビムシ			○							
24		マルトビムシ	<i>Arrhopalites</i> 属の一種			○								
25			<i>Sminthurinus pallescens</i>			○								
26			<i>Sphyrrotheca</i> 属の一種			○								
27	カマアシムシ		カマアシムシ	カマアシムシ			○							
28		ウダガワカマアシムシ				○								
29		サトカマアシムシ				○								
30		クシカマアシムシ	ミスジカマアシムシ			○								
31			モリカワカマアシムシ			○								
32			トサカマアシムシ			○								
33			タカナワカマアシムシ			○								
34			イズミカマアシムシ			○								
35			ヨシイムシ			○								
36			ウエノカマアシムシ			○								
37		コムシ	ナガコムシ	ウロコナガコムシ			○							
38			ニセハサミコムシ	ニセハサミコムシ			○							
39		カゲロウ	モンカゲロウ	トウヨウモンカゲロウ	○								VU	
40	シロイロカゲロウ		オオシロカゲロウ		○							VU		
41	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ		○									
42			コバネアオイトトンボ		○					EN			EX	
43			アオイトトンボ			○								
44			オオアオイトトンボ				○							
45		カワトンボ	ハダロトンボ			○								
46			ミヤマカワトンボ			○								
47			アオハダトンボ			○	○				NT			NT2
48			ニホンカワトンボ				○							
49	モノサシトンボ	モノサシトンボ			○									
50		オオモノサシトンボ			○					EN			EN	

表 3.2-38(2) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(2/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準				
				1	2	3	①	②	③	④	⑤
51	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ	○	○						CR+EN
52			キイトトンボ	○							NT2
53			ベニイトトンボ	○					NT		EN
54			モートンイトトンボ	○					NT		EX
55			クロイトトンボ		○						
56			セスジイトトンボ		○						
57			オオイトトンボ		○						
58			ムカシトンボ		○						
59		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	○	○				NT		NT2
60			アオヤンマ	○	○				NT		VU
61			ルリボシヤンマ		○						
62			マルタンヤンマ	○	○						NT2
63			オオギンヤンマ		○						
64			クロスジギンヤンマ		○						
65			ギンヤンマ		○						
66	コシボシヤンマ			○							
67	ミルンヤンマ			○							
68	ヤブヤンマ			○							
69	サラサヤンマ	○	○						NT2		
70	サナエトンボ	ミヤマサナエ		○							
71		ヤマサナエ		○							
72		キイロサナエ	○					NT		NT1	
73		クロサナエ		○							
74		ダビドサナエ		○							
75		ヒメクロサナエ		○							
76		オナガサナエ		○							
77		アオサナエ	○	○						NT1	
78		ホンサナエ	○	○						VU	
79		コオニヤンマ		○							
80		ウチワヤンマ		○							
81		ヒメサナエ		○							
82		オジロサナエ		○							
83		ナゴヤサナエ	○						VU	NT1	
84		メガネサナエ	○						VU	CR+EN	
85	コサナエ		○								
86	ムカシヤンマ		○								
87	オニヤンマ		○								
88	エゾトンボ	トラフトンボ	○							CR+EN	
89		ハネビロエゾトンボ		○				VU			
90		タカネトンボ		○							
91	エゾトンボ	○							DD		
92	ヤマトンボ	オオヤマトンボ		○							
93		コヤマトンボ		○							
94		キイロヤマトンボ	○	○				NT		CR	
95	トンボ	ショウジョウトンボ		○							
96		ベッコウトンボ	○				国内	CR		EX	
97		ヨツボシトンボ	○	○						NT2	
98		ハラビロトンボ		○							
99		ハッチョウトンボ		○							
100		シオカラトンボ		○							
101		シオヤトンボ		○							
102		オオシオカラトンボ		○							
103		ウスバキトンボ		○							
104		コシアキトンボ		○							
105		チョウトンボ		○							
106		コノシメトンボ		○							
107		ナツアカネ		○							
108		マユタテアカネ		○							
109		アキアカネ		○							
110		ノシメトンボ		○							
111		ヒメアカネ	○	○						NT2	
112		ミヤマアカネ		○							
113		リスアカネ		○							
114		ネキトンボ		○							
115	オオキトンボ	○						EN	CR+EN		

表 3.2-38(3) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(3/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準				
				1	2	3	①	②	③	④	⑤
116	カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ	○							VU
117		アミメカワゲラ	アサカワヒメカワゲラ	○							NT2
118			ヒメカワゲラ	○							VU
119	カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ	○					DD		DD
120	バッタ	コオロギ	エゾエンマコオロギ	○							VU
121			オオオカメコオロギ	○							EN
122		マツムシ	マツムシ	○							NT1
123			スズムシ	○							NT1
124		ヒバリモドキ	エゾスズ	○							
125		キリギリス	ヒガシキリギリス	○							NT1
126		クツワムシ	クツワムシ	○							VU
127	バッタ		セグロイナゴ	○							NT2
128			カラバタ	○							NT1
129			クルマバッタ	○							NT2
130		カタカイガラモドキ	タケカタカイガラモドキ			○					
131		フサカイガラムシ	ハンエンフサカイガラムシ			○					
132			ナラフサカイガラムシ			○					
133			コナラエダフシカイガラムシ			○					
134		カタカイガラムシ	ツノロウムシ			○					
135			ルビーロウムシ			○					
136			ヒラタカタカイガラムシ			○					
137			カンキツカタカイガラムシ			○					
138			ミズキカタカイガラムシ			○					
139			オオカタカイガラムシ			○					
140			ドウダンワタカイガラムシ			○					
141			ツバキワタカイガラムシ			○					
142			クワワタカイガラムシ			○					
143	カメムシ	マルカイガラムシ	ナシシロナガカイガラムシ			○					
144			スギクロホシカイガラムシ			○					
145			シナクロホシカイガラムシ			○					
146			ツバキクロホシカイガラムシ			○					
147			チャクロホシカイガラムシ			○					
148			ヒノキクロホシカイガラムシ			○					
149			タケシロマルカイガラムシ			○					
150			<i>Odonaspis</i> 属の一種			○					
151			サカキマルカイガラムシ			○					
152			スギマルカイガラムシ			○					
153			ウスイロマルカイガラムシ			○					
154			トビイロマルカイガラムシ			○					
155			モミクロマルカイガラムシ			○					
156			カツラマルカイガラムシ			○					
157			カシマルカイガラムシ			○					
158			ナシマルカイガラムシ			○					
159			クワナルカイガラムシ			○					
160			ナラマルカイガラムシ			○					
161			イヌツゲマルカイガラムシ			○					
162			ヒノキマルカイガラムシ			○					
163			チャノマルカイガラムシ			○					
164			クリマルカイガラムシ			○					
165			カシカキカイガラムシ			○					
166			トウキョウウカキカイガラムシ			○					
167			ナシカキカイガラムシ			○					
168			ミズキカキカイガラムシ			○					
169			クワカキカイガラムシ			○					
170			ヒメナガカキカイガラムシ			○					
171			マツカキカイガラムシ			○					
172			ケヤカキカイガラムシ			○					
173			エゴシロカイガラムシ			○					
174			フジシロナガカイガラムシ			○					
175			ハワードシロナガカイガラムシ			○					
176			タンザワシロナガカイガラムシ			○					
177			ハランナガカイガラムシ			○					
178			スギヒメシロカイガラムシ			○					
179			ヒコサンホソカイガラムシ			○					
180			サカキホソカイガラムシ			○					
181			アオキシロカイガラムシ			○					
182			クリシロカイガラムシ			○					
183			シデシロカイガラムシ			○					
184			クワシロカイガラムシ			○					
185			ウメシロカイガラムシ			○					
186			ササシロナガカイガラムシ			○					
187			ササヒメシロカイガラムシ			○					
188			マサキナガカイガラムシ			○					

表 3.2-38(4) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(4/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準				
				1	2	3	①	②	③	④	⑤
189	カメムシ	フクロカイガラムシ	ケヤキフクロカイガラムシ			○					
190			タケフクロカイガラムシ			○					
191		サクラアカカイガラムシ				○					
192		タマカイガラムシ	ナラタマカイガラムシ			○					
193		ニセタマカイガラムシ	カシニセタマカイガラムシ			○					
194		ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ			○					
195			カシノアカカイガラムシ			○					
196			マツモグリカイガラムシ			○					
197		コナカイガラムシ	タケシロオカイガラムシ			○					
198			マツコナカイガラムシ			○					
199			タケフシカイガラムシ			○					
200			ツツジコナカイガラムシ			○					
201			ササノコギリカイガラムシ			○					
202			スギヒメコナカイガラムシ			○					
203		セミ	アブラゼミ			○					
204			ツクツクボウシ			○					
205			ヒグラシ			○					
206			ハルゼミ			○				VU	
207			ミンミンゼミ			○					
208		ヨコバイ	フクロクヨコバイ			○			NT	CR	
209		ウンカ	クロスジオウンカ			○				NT1	
210		ハネナガウンカ	アヤハリハネナガウンカ			○				NT1	
211	アリヅカウンカ	アリヅカウンカ			○				NT1		
212	タイコウチ	タイコウチ			○						
213		ミズカマキリ			○						
214	コオイムシ	タガメ			○			VU	EX		
215	ミズムシ	ミゾナシミズムシ			○			NT	VU		
216		ミヤケミズムシ			○			NT	CR		
217	コバンムシ	コバンムシ			○			EN	CR		
218	ナベブタムシ	ナベブタムシ			○				VU		
219	マツモムシ	マツモムシ			○						
220	ミズカメムシ	ムモンミズカメムシ			○				NT1		
221	アメンボ	シマアメンボ			○						
222		オオアメンボ			○				NT1		
223		アメンボ			○						
224		ババアメンボ			○			NT	NT1		
225		ヒメアメンボ			○						
226		ハネナシアメンボ			○				NT1		
227		コセアカアメンボ			○						
228		エサキアメンボ			○			NT	NT1		
229	カメムシ	イネカメムシ			○				CR		
230	コウチュウ	ハンミョウ	エリザハンミョウ			○					
231			ホソハンミョウ			○			VU		
232			ナミハンミョウ			○					
233			トウキョウヒメハンミョウ			○					
234			カワラハンミョウ			○			EN	EX	
235		コハンミョウ			○						
236		オサムシ	キベリマルクビゴミムシ			○			EN	NT1	
237			フタモンマルクビゴミムシ			○			EN	NT1	
238			チョウセンゴモクムシ			○			VU	NT2	
239			チビアオゴミムシ			○			EN	NT1	
240			ハガクビナガゴミムシ			○			DD	EN	
241			クロモンヒラナガゴミムシ			○				VU	
242	アリスアトキリゴミムシ				○			DD	NT2		
243	コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			○			DD	VU		
244	ゲンゴロウ	ゴマダラチビゲンゴロウ			○				VU		
245		マメゲンゴロウ			○						
246		キベリクロヒメゲンゴロウ			○			NT	NT1		
247		ハイイロゲンゴロウ			○						
248		シマゲンゴロウ			○			NT	CR		
249	オオイチモンジシマゲンゴロウ			○			EN	EN			
250		ゲンゴロウ			○			VU	EX		
251	ミズスマシ	オナガミズスマシ			○				VU		
252		ミズスマシ			○			VU			
253	ガムシ	ガムシ			○			NT	CR		
254	エンマムシ	ルリエンマムシ			○				NT2		
255	タマキノコムシ	カントウロチビシデムシ			○				NT2		
256	シデムシ	ヤマトモンシデムシ			○			NT	NT1		
257	クワガタムシ	ノコギリクワガタ			○						
258		コクワガタ			○						
259	コガネムシ	オオキイロコガネ			○				NT1		

表 3.2-38(5) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(5/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準				
				1	2	3	①	②	③	④	⑤
260	コウチュウ	タマムシ	ウバタマムシ	○							NT1
261			キンヘリタマムシ	○							DD
262		ホタル	ゲンジボタル	○							CR
263			ヘイケボタル	○							NT1
264		テントウムシ	アイヌテントウ	○							NT2
265		カミキリムシ	ミヤマハリハナカミキリ		○						
266			トラフカミキリ	○							NT1
267			シロスジカミキリ	○							NT1
268		ハムシ	タグチホソヒラタハムシ	○							DD
269		イネゾウムシ	クロイネゾウモドキ	○							NT2
270	ハチ	ミフシハバチ	アカスジチュウレンジ			○					
271			チュウレンジバチ			○					
272			ルリチュウレンジ			○					
273		コンボウハバチ	ヒメコンボウハバチ			○					
274		ハバチ	ヒゲナガクロハバチ			○					
275			ハグロハバチ			○					
276			セグロカブラハバチ			○					
277			ニホンカブラハバチ			○					
278			チャイロハバチ			○					
279			クロムネハバチ			○					
280			キコシホソハバチ			○					
281			トガリハチガタハバチ			○					
282		キバチ	ニホンキバチ			○					
283			オナガキバチ			○					
284		コマユバチ	アオムシサムライコマユバチ			○					
285		セダカヤセバチ	ホシセダカヤセバチ			○					
286		コンボウヤセバチ	オオコンボウヤセバチ			○					
287		アシプトコバチ	キアシプトコバチ			○					
288		オナガコバチ	オナガアシプトコバチ			○					
289		タマバチ	クリタマバチ			○					
290		セイボウ	ムネツヤセイボウ			○					
291			ホシツヤセイボウ			○					
292			イラガセイボウ			○					
293			オオセイボウ			○			DD		
294		アリバチモドキ	ヤマトアリバチモドキ			○					
295		クモバチ	ミヤコヒメクモバチ			○					
296			<i>Auplopus</i> 属の数種			○					
297			ナガセヒゲクモバチ			○					
298			<i>Dipogon</i> 属の一種			○					
299			トゲアシオオクモバチ			○					
300			<i>Agenioleus</i> 属の一種			○					
301			オオモンクロクモバチ			○					
302			<i>Anoplus</i> 属の数種			○					
303			ヤマモトクロクモバチ			○					
304			ナミモンクモバチ			○					
305			オオシロフクモバチ			○					
306		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ			○					
307			キンケハラナガツチバチ			○					
308			ウチダハラナガツチバチ			○					
309			アカスジツチバチ			○					
310			キオビツチバチ			○					
311		アリ	オオハリアリ			○					
312			トゲズネハリアリ			○					
313			ニセハリアリ			○					
314			ヒメハリアリ			○					
315			テラニシハリアリ			○					
316			ヒラタウロコアリ			○					
317			ヒメセダカウロコアリ			○					
318			ウロコアリ			○					
319			ウメマツアリ			○					
320			コツノアリ			○					
321			トフシアリ			○					
322			アズマオオズアリ			○					
323			トビロシワアリ			○					
324			テラニシシリアゲアリ			○					
325			キイロシリアゲアリ			○					
326			アミメアリ			○					
327			シベリアカタアリ			○					
328			クロヤマアリ			○					
329			クロクサアリ			○					
330			トビイロケアリ			○					
331			<i>Lasius</i> 属の一種			○					
332			アメイロアリ			○					
333			クロオアリ			○					

表 3.2-38(6) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(6/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準						
				1	2	3	①	②	③	④	⑤		
334	ハチ	スズメバチ	オオフタオビドロバチ			○							
335			ミカドトックリバチ			○							
336			ムモントックリバチ				○						
337			カバオビドロバチ					○					
338			ミカドドロバチ					○					
339			エントツドロバチ					○					
340			スズバチ					○					
341			ナミカバフドロバチ					○					
342			サイジョウハムシドロバチ					○					
343			ムモンホソアシナガバチ					○					
344			フタモンアシナガバチ					○					
345			ヤマトアシナガバチ			○					DD	EN	
346			セグロアシナガバチ					○					
347			キボアシナガバチ					○					
348			キアシナガバチ					○					
349			コアシナガバチ					○					
350			コガタスズメバチ					○					
351			オオスズメバチ					○					
352			キイロスズメバチ					○					
353			クロスズメバチ					○					
354			アナバチ	ヤマジガバチ				○					
355				サトジガバチ				○					
356				ヤマトルリジガバチ					○				
357				コクロアナバチ					○				
358				クロアナバチ					○				
359			ギングチバチ	ムネアカツヤアナバチ		○							NT1
360				ナンブツヤアナバチモドキ		○							CR
361				オタネギングチ				○					
362				ナミギングチ				○					
363				クララギングチ				○					
364				イワタギングチ				○					
365				ニッポンギングチ				○					
366				オオハヤバチ					○				
367				ヤマトコトガタバチ					○				
368				フクイジガバチモドキ			○					DD	EN
369	トゲジガバチモドキ					○							
370	エゾジガバチモドキ					○							
371	コウノスジガバチモドキ				○						CR		
372	オオジガバチモドキ						○						
373	ナンブジガバチモドキ				○						NT2		
374	コシブトジガバチモドキ						○						
375	ナミジガバチモドキ						○						
376	マダラジガバチモドキ						○						
377	シロシタイスカバチ						○						
378	ワモンイスカバチ						○						
379	アバタアリマキバチ						○						
380	アシジロヨコバイバチ						○						
381	シロヨコバイバチ						○						
382	スジマエダテバチ						○						
383	アカアシツチスガリ						○						
384	ヒメツチスガリ						○						
385	ナミツチスガリ						○						
386	マルモンツチスガリ						○						

表 3.2-38(7) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(7/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準						
				1	2	3	①	②	③	④	⑤		
387	ハチ	ミツバチ	アシブトムカシハナバチ			○							
388			スミスメンハナバチ			○							
389			ニッポンメンハナバチ					○					
390			キバナヒメハナバチ					○					
391			ヒコサンマメヒメハナバチ					○					
392			マメヒメハナバチ					○					
393			アブラナマメヒメハナバチ					○					
394			ミツクリフシダカヒメハナバチ					○					
395			ヤスマツコンボウハナバチ					○					
396			アカガネコハナバチ					○					
397			ズマルコハナバチ					○					
398			タカネコハナバチ					○					
399			サビイロカタコハナバチ					○					
400			シロスジカタコハナバチ					○					
401			フタモンカタコハナバチ					○					
402			<i>Lasiglossum</i> 属の数種					○					
403			ヤマトヤドリコハナバチ					○					
404			ミズホヤドリコハナバチ					○					
405			エサキヤドリコハナバチ					○					
406			ヤノトガリハナバチ					○					
407			<i>Coelioxys</i> 属の一種					○					
408			オオハキリバチ					○					
409			ヒメハキリバチ					○					
410			キョウトキヌゲハキリバチ					○					
411			スミスハキリバチ					○					
412			バラハキリバチ					○					
413			ツルガハキリバチ					○					
414			イマイツツハナバチ					○					
415			マメコバチ					○					
416	イワタチビツヤハナバチ					○							
417	キオビツヤハナバチ					○							
418	キムネクマバチ					○							
419	ヒメキマダラハナバチ					○							
420	ギンランキマダラハナバチ					○							
421	ヒゲナガキマダラハナバチ					○							
422	ハリマキマダラハナバチ					○							
423	ダイミョウキマダラハナバチ					○							
424	ニッポンキマダラハナバチ					○							
425	コキマダラハナバチ					○							
426	セイヨウミツバチ					○							
427	トラマルハナバチ					○							
428	コマルハナバチ					○							
429	ニッポンヒゲナガハナバチ					○							
430	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	○							LP		
431	ハエ	ケバエ	メスアカケバエ			○							
432			カ	ヒトスジシマカ			○						
433		ミズアブ	アメリカミズアブ				○						
434			ネグロミズアブ				○						
435			キイロコウカアブ					○					
436			コウカアブ				○						
437		アブ	ヤマトアブ				○						
438			シロフアブ				○						
439			ウシアブ					○					
440		ツリアブ	ピロウドツリアブ				○						
441		ムシヒキアブ	シオヤアブ				○						
442			ナミマガリケムシヒキ				○						
443		アシナガバエ	マダラホソアシナガバエ				○						

表 3.2-38(8) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(8/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準					
				1	2	3	①	②	③	④	⑤	
444	ハエ	ハナアブ	ツマキオオヒラタアブ			○						
445			ヨコジマオオヒラタアブ			○						
446			ホソヒラタアブ				○					
447			キイロナミホシヒラタアブ					○				
448			マダラコシボソハナアブ					○				
449			キアシマメヒラタアブ					○				
450			スズキフタモンハナアブ					○				
451			カワムラモモブトハナアブ			○						NT2
452			ヒサマツハチモドキハナアブ			○						NT1
453			ハチモドキハナアブ			○						NT2
454			ホシメハナアブ					○				
455			シマハナアブ					○				
456			ナミハナアブ					○				
457			ルリハナアブ					○				
458			オオハナアブ					○				
459			アシブトハナアブ					○				
460			クロハラナガハナアブ					○				
461			ミヤマルリイロハラナガハナアブ					○				
462			ミバエ	ツバキハマダラミバエ				○				
463				ハルササハマダラミバエ				○				
464			ベッコウバエ					○				
465			ヤチバエ					○				
466			ツヤホソバエ					○				
467			ヒゲブトコバエ					○				
468			フンバエ					○				
469			ヒメイエバエ					○				
470			イエバエ	モモグロオオイエバエ				○				
471				オオセアカクロバエ				○				
472				オオイエバエ					○			
473				イエバエ					○			
474				サシバエ					○			
475				カガハナゲバエ					○			
476	セマダライエバエ						○					
477	ケブカクロバエ						○					
478	クロバエ	オオクロバエ				○						
479		フタオクロバエ				○						
480		ウヅキイエバエモドキ				○						
481		イトウクロバエ				○						
482		キンバエ				○						
483		ミドリキンバエ				○						
484		コガネキンバエ				○						
485		ミヤマキンバエ				○						
486		スネアカキンバエ				○						
487		ヒツジキンバエ				○						
488		ヒロズキンバエ				○						
489		ホホグロオビキンバエ				○						
490	ツマグロキンバエ				○							
491	ニクバエ	センチニクバエ				○						
492		シリグロニクバエ				○						
493		カガニクバエ				○						
494		タカハシニクバエ				○						
495		クサニクバエ				○						
496		ナミニクバエ				○						
497		ゲンロクニクバエ				○						
498	ヤドリバエ	マルボシヒラタヤドリバエ				○						
499		キイロコガネヤドリバエ		○						NT2		
500		ヨコジマオオハリバエ				○						
501		<i>Tachina micado</i>				○						

表 3.2-38(9) 調査対象範囲における昆虫類の確認状況(9/9)

No.	目名	科名	種名	文献No.			重要種選定基準					
				1	2	3	①	②	③	④	⑤	
502	チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ	○	○							CR
503			ギンイチモンジセセリ	○	○					NT		NT2
504			ホソバセセリ	○								CR
505			イチモンジセセリ		○							
506			オオチャバネセセリ	○								NT2
507			キマダラセセリ			○						
508		アゲハチョウ	ウスバシロチョウ		○							
509			モンキアゲハ		○							
510			キアゲハ		○							
511			アゲハ		○							
512			アオスジアゲハ		○							
513		シロチョウ	ツマグロキチョウ	○						EN		EX
514			キタキチョウ		○							
515			モンキチョウ		○							
516	ツマキチョウ			○								
517	モンシロチョウ			○								
518	シジミチョウ	ウラギンシジミ		○								
519		ムラサキシジミ		○								
520		ウラゴマダラシジミ	○								CR+EN	
521		オオミドリシジミ	○	○							CR+EN	
522		ウラナミアカシジミ	○								CR+EN	
523		ミドリシジミ	○								NT1	
524		コツバメ	○								CR+EN	
525		カラスシジミ		○								
526		ベニシジミ		○								
527		ルリシジミ		○								
528		クロシジミ	○						EN		EX	
529		シルビアシジミ	○						EN		EX	
530		タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン		○							
531			アサマイチモンジ	○								CR
532	ヒオドシチョウ		○								VU	
533	コムラサキ		○								NT1	
534	オオムラサキ		○						NT		CR	
535	クロヒカゲ			○								
536	ジャノメチョウ		○								NT2	
537	コジャノメ			○								
538	サトキマダラヒカゲ			○								
539	ヒメウラナミジャノメ			○								
540	ヤマユガ	オナガミズアオ	○					NT		LP		
541	ヤガ	ウスミモンキリガ	○					NT		NT1		
合計 14目 122科 541種				114	112	332	0	1	48	0	113	

注 1) 分類、配列等は原則として「日本産昆虫総目録」(九州大学農学部昆虫学教室, 平成元年) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1: 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年, 埼玉県)

2: 「第 5 回 自然環境基礎調査」(環境省)

3: 「鶴ヶ島の動物」(平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

⑦ 底生動物

調査対象範囲の底生動物の確認状況を表 3.2-39 に示す。

調査対象範囲では 3 門 4 綱 8 目 13 科 16 種が確認されている。

このうち重要な種としては、埼玉県 RDB の絶滅危惧 IB 類となっているヌカエビ、サワガニなどがあげられる。

表 3.2-39 調査対象範囲における底生動物の確認状況

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	文献No.	重要種選定基準					
							1	①	②	③	④	⑤
1	扁形動物	渦虫	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	○					LP	
2	軟体動物	腹足	原始紐舌	タニシ	マルタニシ	○			VU		NT2	
3			基眼	カワコザラガイ	カワコザラガイ	○					NT2	
4				モノアラガイ	モノアラガイ	○			NT		DD	
5				ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ	○			DD		DD	
6			柄眼	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ	○			NT		VU	
7			二枚貝	イシガイ	イシガイ	イシガイ	○					NT2
8		マツカサガイ				○			NT		NT1	
9		ドブガイ				○						NT2
10		マルスダレガイ				ドブシジミ	ドブシジミ	○				
11		節足動物	軟甲	ヨコエビ	メクラヨコエビ	ヤマトメナシヨコエビ	○					DD
12	エビ			ヌマエビ	ヌカエビ	○						EN
13				テナガエビ	テナガエビ	○						
14				スジエビ	○							
15				サワガニ	サワガニ	○						EN
16				モクズガニ	モクズガニ	○						NT2
合計 3門 4綱 8目 13科 16種						16	0	0	5	0	14	

注 1) 分類、配列等は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年,公益財団法人リバーフロント研究所)に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

1:「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年,埼玉県)

注 3) 重要種選定基準の⑤は埼玉県 RDB のうちの「低地帯」に該当するものである。

2) 植物の生育状況

調査対象範囲の植物の確認状況を表 3.2-40 に示す。

調査対象範囲では 92 科 356 種の植物が確認されている。

対象事業実施区域のある鶴ヶ島市の情報が掲載されている「鶴ヶ島の植物」では、鶴ヶ島市において 337 種の植物の確認が報告されている。

このうち重要な種としては、埼玉県 RDB で絶滅危惧 IA 類となっているオオニガナや、絶滅危惧 II 類となっているレンゲツツジ、ナンバンギセル、ハバヤマボクチなどがあげられる。

表 3.2-40(1) 調査対象範囲における植物の確認状況 (1/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準					
				4	5	①	②	③	④	⑤	
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	トウゲシバ		○						
2		トクサ	スギナ		○						
3			トクサ		○						
4			ハナヤスリ	オオハナワラビ		○					
5			フサシダ	カニクサ		○					
6			コバノイシカグマ	ワラビ		○					
7			オシダ	ベニシダ		○					
8				ヤマイタチシダ		○					
9				アイノユクマワラビ		○					
10				ナライシダ		○					
11				イノデ		○					
12			ヒメシダ	ミヅシダ		○					
13				ハシゴシダ		○					
14				ハリガネワラビ		○					
15				ヒメワラビ		○					
16				ミドリヒメワラビ		○					
17			メシダ	イヌワラビ		○					
18				ヘビノネゴザ		○					
19				ホソバシケシダ		○					
20				シケシダ		○					
21				クサソテツ		○					
22			ウラボシ	ノキシノブ		○					
23	裸子植物	イチョウ	イチョウ		○						
24		マツ	モミ		○						
25			アカマツ		○						
26			スギ		○						
27			ヒノキ		○						
28	離弁花類	ヤナギ	アカメヤナギ		○						
29			イヌコリヤナギ		○						
30		カバノキ	ハンノキ		○						
31			アカシデ		○						
32			イヌシデ		○						
33		ブナ	クリ		○						
34			クヌギ		○						
35			アラカシ		○						
36			シラカシ		○						
37			コナラ		○						
38		ニレ	ムクノキ		○						
39			エノキ		○						
40			ケヤキ		○						
41		クワ	クワクサ		○						
42			カナムグラ		○						
43			ヤマグラ		○						
44		タデ	シンミズヒキ		○						
45			ヤナギタデ		○						
46			イヌタデ		○						
47			ヤノネグサ		○						
48			イシミカワ		○						
49			サナエタデ		○						
50			ママコノシリヌグイ		○						
51			ミヅソバ		○						
52			ギシギシ		○						
53				エゾノギシギシ		○					

表 3.2-40(2) 調査対象範囲における植物の確認状況 (2/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準				
				4	5	①	②	③	④	⑤
54	離弁花類	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ		○					
55		ナデシコ	ノミノツヅリ		○					
56			オランダミミナグサ		○					
57			ミミナグサ		○					
58			ノミノフスマ		○					
59			ウシハコベ		○					
60			ミドリハコベ		○					
61		アカザ	シロザ		○					
62		ヒユ	ヒカゲイノコズチ		○					
63			ヒナタイノコズチ		○					
64		モクレン	ホオノキ		○					
65			コブシ		○					
66		クスノキ	クスノキ		○					
67			ヤマコウバシ		○					
68			シロダモ		○					
69		キンボウゲ	イチリンソウ	○						NT
70			センニンソウ		○					
71			ケキツネノボタン		○					
72		メギ	メギ		○					
73			ナンテン		○					
74		アケビ	アケビ		○					
75			ミツバアケビ		○					
76		ツツラフジ	アオツツラフジ		○					
77		ドクダミ	ドクダミ		○					
78			ハンゲショウ	○						VU
79		センリョウ	フタリシズカ		○					
80		ツバキ	ヤブツバキ		○					
81			ヒサカキ		○					
82		ケシ	キケマン		○					
83			ムラサキケマン		○					
84			タケニグサ		○					
85		アブラナ	ナズナ		○					
86			タネツケバナ		○					
87			コイヌガラシ	○				NT		NT
88			イヌガラシ		○					
89		ユキノシタ	ウツギ		○					
90			マルバウツギ		○					
91			コアジサイ		○					
92			アジサイ		○					
93			ノリウツギ		○					
94			ユキノシタ		○					
95		バラ	キンミズヒキ		○					
96			ヘビイチゴ		○					
97			ズミ		○					
98			カワラサイコ	○						VU
99			キジムシロ		○					
100			ミツバツチグリ		○					
101			オヘビイチゴ		○					
102			カマツカ		○					
103			イヌザクラ		○					
104			ウロミズザクラ		○					
105			マメザクラ		○					
106			ヤマザクラ		○					
107			アズマイバラ		○					
108			ノイバラ		○					
109			テリハノイバラ		○					
110			クサイチゴ		○					
111			ニガイチゴ		○					
112			モミジイチゴ		○					
113			ナワシロイチゴ		○					

表 3.2-40(3) 調査対象範囲における植物の確認状況 (3/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準					
				4	5	①	②	③	④	⑤	
114	離弁花類	マメ	ネムノキ		○						
115			ヤブマメ		○						
116			ゲンゲ		○						
117			カワラケツメイ		○						
118			フジカンゾウ		○						
119			ヌスビトハギ		○						
120			ヤブハギ		○						
121			ツルマメ		○						
122			コマツナギ		○						
123			ヤハズソウ		○						
124			ヤマハギ		○						
125			メドハギ		○						
126			ネコハギ		○						
127			クズ		○						
128			ムラサキツメクサ		○						
129			ヤハズエンドウ		○						
130			フジ		○						
131			カタバミ	イモカタバミ		○					
132				カタバミ		○					
133				ムラサキカタバミ		○					
134			フウロソウ	ゲンノショウコ		○					
135			トウダイグサ	エノキグサ		○					
136				ニシキソウ		○					
137				コニシキソウ		○					
138				アカメガシワ		○					
139				ヒメミカンソウ		○					
140			ミカン	ミヤマシキミ		○					
141				サンショウ		○					
142			ウルシ	ヌルデ		○					
143				ヤマウルシ		○					
144	カエデ	チドリノキ		○							
145		ウリカエデ		○							
146		エンコウカエデ		○							
147		イロハモミジ		○							
148	モチノキ	アオハダ		○							
149		ウメモドキ		○							
150	ニシキギ	ツルウメモドキ		○							
151		コマユミ		○							
152		ツリバナ		○							
153		マユミ		○							
154	ミツバウツギ	ゴンズイ		○							
155	クロウメモドキ	クマヤナギ		○							
156	ブドウ	ノブドウ		○							
157		ヤブガラシ		○							
158		ツタ		○							
159		エビヅル		○							
160	グミ	ツルグミ		○							
161		アキグミ		○							
162	スマレ	ナガバノスマレサイシン		○							
163		タチツボスマレ		○							
164		アオイスマレ		○							
165		スマレ		○							
166		フモトスマレ		○							
167		ツボスマレ		○							
168	ウリ	アマチャヅル		○							
169		アレチウリ		○							
170	ミソハギ	ヒメミソハギ	○						NT		
171	アカバナ	ミズタマソウ		○							
172		チョウジタデ		○							
173		メマツヨイグサ		○							
174		オオマツヨイグサ		○							
175	ミズキ	アオキ		○							
176		ミズキ		○							
177	ウコギ	ヤマウコギ		○							
178		ミヤマウコギ		○							
179		タラノキ		○							
180		ヤツデ		○							
181		キヅタ		○							

表 3.2-40(4) 調査対象範囲における植物の確認状況 (4/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準						
				4	5	①	②	③	④	⑤		
182	離弁花類	セリ	セントウソウ		○							
183			ノチドメ		○							
184			オオチドメ		○							
185			セリ		○							
186	合弁花類	リョウブ	リョウブ		○							
187		イチヤクソウ	イチヤクソウ		○							
188		ツツジ	ネジキ		○							
189			アセビ		○							
190			レンゲツツジ		○						VU	
191			ヤマツツジ		○							
192			ナツハゼ		○							
193		ヤブコウジ	マンリョウ		○							
194			ヤブコウジ		○							
195		サクラソウ	オカトラノオ		○							
196			ヌマトラノオ		○	○					NT	
197			コナスビ			○						
198		エゴノキ	エゴノキ		○							
199		ハイノキ	サワフタギ		○							
200		モクセイ	コバノトネリコ		○							
201			ネズミモチ		○							
202			イボタノキ		○							
203			ヒイラギ		○							
204		リンドウ	リンドウ		○							
205			センブリ		○						VU	
206			ツルリンドウ			○						
207		キョウチクトウ	テイカカズラ		○							
208		ガガイモ	ガガイモ		○							
209		アカネ	ヤエムグラ		○							
210			ヘクソカズラ		○							
211			アカネ		○							
212		ヒルガオ	コヒルガオ		○							
213	ヒルガオ			○								
214	ムラサキ	キュウリグサ		○								
215	クマツヅラ	ムラサキシキブ		○								
216		ヤブムラサキ		○								
217		クサギ		○								
218	シソ	キランソウ		○								
219		カキドオシ		○								
220		ホトケノザ		○								
221		ヒメオドリコソウ		○								
222		ヒメジソ		○								
223		ヤマハッカ		○								
224		アキノタムラソウ		○								
225		ミゾコウジュ		○					NT		NT	
226		ゴマノハグサ	オオアブノメ		○					VU		EN
227			サギゴケ			○						
228	トキワハゼ				○							
229	クチナシグサ				○						NT	
230	タチイヌノフグリ				○							
231	オオイヌノフグリ				○							
232	カラヂシャ			○						NT		VU
233	キツネノマゴ		キツネノマゴ		○							
234	ハマウツボ	ナンバンギセル		○							VU	
235	ハエドクソウ	ハエドクソウ		○								
236	オオバコ	オオバコ		○								
237	スイカズラ	ツクバネウツギ		○								
238	オミナエシ	ヤマウグイスカグラ		○								
239		スイカズラ		○								
240		ニワトコ		○								
241		ガマズミ		○								
242		オトコヨウゾメ		○								
243		オトコエシ		○								

表 3.2-40(5) 調査対象範囲における植物の確認状況 (5/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準				
				4	5	①	②	③	④	⑤
244	合弁花類	キク	キッコウハグマ		○					
245			ブタクサ		○					
246			ヨモギ		○					
247			シロヨメナ		○					
248			シラヤマギク		○					
249			オケラ		○					
250			アメリカセンダングサ		○					
251			タウコギ		○					NT
252			ヒレアザミ			○				
253			トキンソウ			○				
254			トネアザミ			○				
255			ノハラアザミ			○				
256			オオアレチノギク			○				
257			ベニバナボロギク			○				
258			タカサブロウ			○				
259			ヒメムカシヨモギ			○				
260			ハルジオン			○				
261			ヒヨドリバナ			○				
262			ハハコグサ			○				
263			キツネアザミ			○				
264			ニガナ			○				
265			イワニガナ			○				
266			ヨメナ			○				
267			アキノノゲシ			○				
268			ユオニタビラコ			○				
269			ヤブタビラコ			○				
270			ナガバノコウヤボウキ			○				
271			コウヤボウキ			○				
272	フキ			○						
273	コウゾリナ			○						
274	オオニガナ			○				CR		
275	ノボロギク			○						
276	アキノキリンソウ			○						
277	オニノゲシ			○						
278	ノゲシ			○						
279	ヒメジョオン			○						
280	ハバヤマボクチ			○				VU		
281	セイヨウタンポポ			○						
282	カントウタンポポ			○						
283	オニタビラコ			○						
284	単子葉類	トチカガミ	セキシウモ	○					NT	
285		ユリ	ノビル		○					
286	ホウチャクソウ			○						
287	チゴユリ			○						
288	オオバギボウシ			○						
289	コバギボウシ			○						
290	ヤマユリ			○						
291	ヤブラン			○						
292	ジャノヒゲ			○						
293	オオバジャノヒゲ			○						
294	ツルボ			○						
295	サルトリイバラ			○						
296	タチシオデ			○						
297	シオデ			○						
298	アマナ			○					NT	
299	ヒガンバナ		キツネノカミソリ		○				NT	
300	ヤマノイモ		ヤマノイモ		○					
301		オニドコロ		○						
302	イグサ	スズメノヤリ		○						
303	ツユクサ	ツユクサ		○						
304		イボクサ		○						
305		ヤブミョウガ		○						

表 3.2-40(6) 調査対象範囲における植物の確認状況 (6/6)

No.	分類群	科名	種名	文献No.		重要種選定基準				
				4	5	①	②	③	④	⑤
306	単子葉類	イネ	メリケンカルカヤ		○					
307			コブナグサ		○					
308			トダシバ		○					
309			カズノコグサ		○					
310			ヤマカモジグサ		○					
311			ノガリヤス		○					
312			メヒシバ		○					
313			アキメヒシバ		○					
314			イヌビエ		○					
315			オヒシバ		○					
316			トボシガラ		○					
317			ウシノシッペイ		○					
318			チガヤ		○					
319			アシカキ		○					
320			ササクサ		○					
321			アシボソ		○					
322			オギ		○					
323			ケチヂミザサ		○					
324			コチヂミザサ		○					
325			ヌカキビ		○					
326			オオクサキビ		○					
327			スズメノヒエ		○					
328			ヨシ		○					
329			モウソウチク		○					
330			アズマネザサ		○					
331			スズメノカタビラ		○					
332			イチゴツナギ		○					
333			アキノエノコログサ		○					
334			キンエノコロ		○					
335			エノコログサ		○					
336			ムラサキエノコロ		○					
337			ヤシ	シュロ		○				
338			サトイモ	カラスビシャク		○				
339			ミクリ	ミクリ	○				NT	NT
340			カヤツリグサ	エナシヒゴクサ		○				
341				ヒメカンスゲ		○				
342	ホソバヒカゲスゲ			○						
343	ヒゴクサ			○						
344	ヒカゲスゲ			○						
345	ナキリスゲ			○						
346	アゼスゲ			○						
347	カヤツリグサ			○						
348	マツカサススキ	○							NT	
349	オオアブラガヤ			○						
350	ラン	ギンラン	○						VU	
351		キンラン	○					VU	EN	
352		サイハイラン	○						NT	
353		シュンラン	○	○					NT	
354		ジガバチソウ	○						NT	
355		クモキリソウ		○					NT	
356		ネジバナ		○						
合計 92科 356種				21	337	0	0	6	0	27

注 1) 分類、配列等は原則として「植物目録 1987」(昭和 63 年, 環境庁) に準拠した。

注 2) 文献No.は以下のとおりである。

4: 「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 24 年, 埼玉県)

5: 「鶴ヶ島の植物」(平成 3 年 3 月, 鶴ヶ島町)

3) 植生の状況及び緑の量

調査対象範囲における植生図を図 3.2-18 に示す。

鶴ヶ島市は北側が市街地、南側が畑雑草群落で主に構成されており、比較的まとまった植生としてはクヌギ-コナラ群集、ヤマツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林が点在している。

対象事業実施区域の東側が畑雑草群落に区分され、その一部にヤマツツジ-アカマツ群集が存在する。なお、西側は市街地となっているが、平成 30 年 2 月現在、建築物等の工作物はなく更地となっている。

緑の量については、対象事業実施区域の周辺 3km の範囲では、約 2,000ha の緑が分布しており、3km 範囲内の約 57%を緑が占めている状況となっている（緑の量は植生図の GIS データより計測した結果である）。

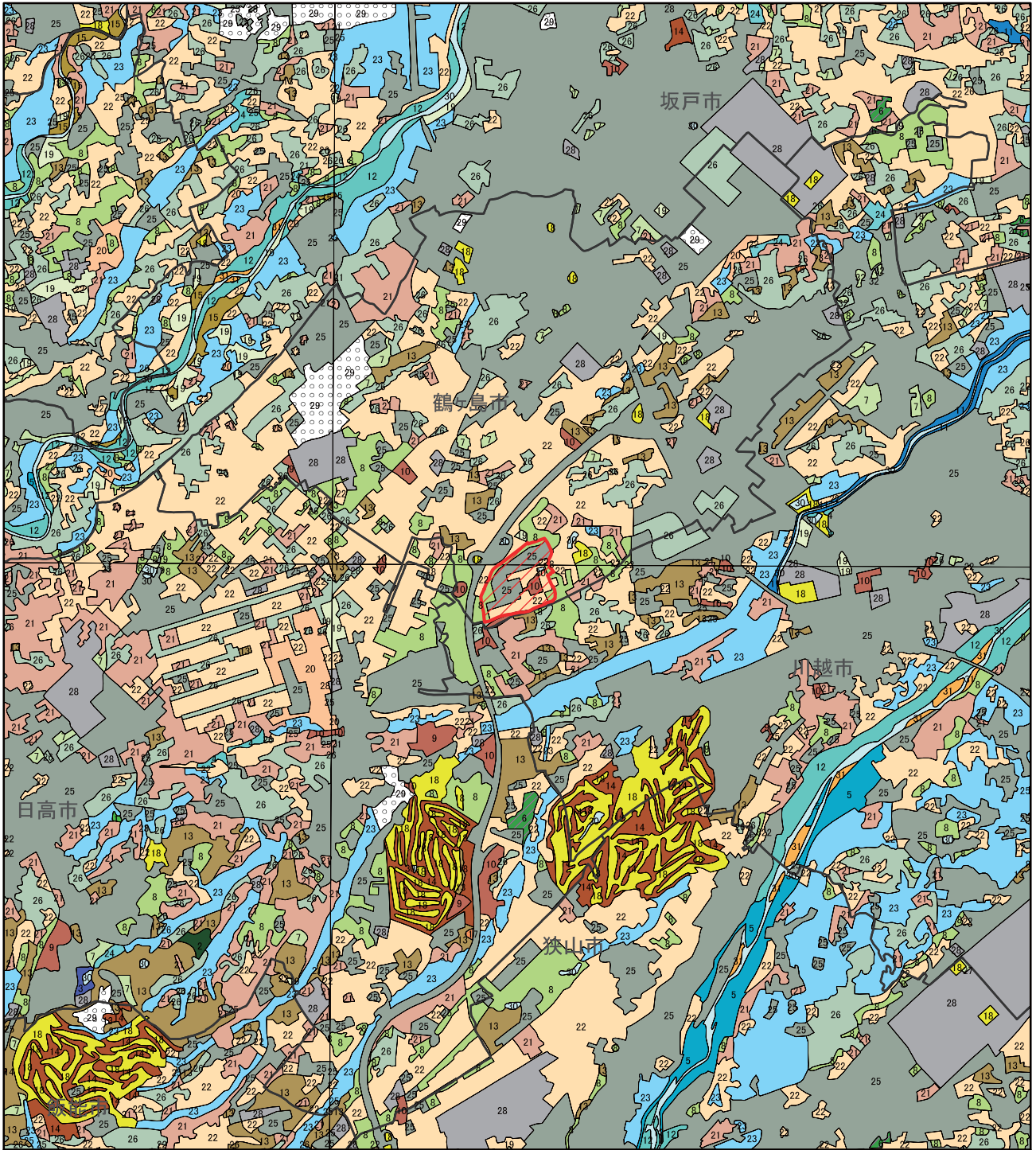



































図3.2-18 植生図

凡例

 対象事業実施区域

- | | | | |
|---|--|--|--|
|  1 アラクシ群落 |  9 アカマツ群落(VII) |  17 マダケ・ハチク林 |  25 市街地 |
|  2 シキミーモミ群集 |  10 ヤマツツジャーアカマツ群集 |  18 ゴルフ場・芝地 |  26 緑の多い住宅地 |
|  3 ハノキ群落(VI) |  11 ヨシクラス |  19 路傍・空地雑草群落 |  27 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
|  4 クヌギ群落(VI) |  12 オギ群集 |  20 放棄畑雑草群落 |  28 工場地帯 |
|  5 ヤナギ低木群落(VI) |  13 スギ・ヒノキ・サワラ植林 |  21 果樹園 |  29 造成地 |
|  6 ケヤキ・シラカシ群落 |  14 アカマツ植林 |  22 畑雑草群落 |  30 開放水域 |
|  7 クリーコナラ群集 |  15 ニセアカシア群落 |  23 水田雑草群落 |  31 自然裸地 |
|  8 クヌギコナラ群集 |  16 モウソウチク林 |  24 放棄水田雑草群落 |  32 残存・植栽樹群地 |

1:60,000



出典:「第6回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」(環境省生物多様性センター)
http://www.biodic.go.jp/ne_research.html#id13

4) 巨樹・巨木

調査対象範囲における巨樹・巨木の状況を表 3.2-41、図 3.2-19 に示す。

対象事業実施区域の近傍には巨樹・巨木は存在しない。対象事業実施区域から最も近い巨樹・巨木は、対象事業実施区域の北側約 2.5km 離れた「脚折の大ケヤキ」である。

表 3.2-41 巨樹・巨木の状況

No.	所在地	樹種	名称	幹周り (cm)	樹高 (m)
1	鶴ヶ島市	ケヤキ	脚折の大ケヤキ	749	17
2	狭山市	ケヤキ	—	310	20
3		ケヤキ	—	335	0
4		ケヤキ	—	395	16
5		ムクノキ	—	320	20
6		ケヤキ	—	320	16
7		ケヤキ	—	320	15
8		ケヤキ	—	420	25
9		ケヤキ	—	340	20
10		ケヤキ	—	480	8
11		ムクノキ	—	340	13
12		ケヤキ	—	320	20
13		ケヤキ	—	350	20
14		ケヤキ	—	340	22
15		ケヤキ	—	505	22
16		イチョウ	—	350	16
17	坂戸市	ケヤキ	ケヤキ	331	25
18		ビャクシン	入西のビャクシン	350	12
19		スギ	土屋神社の神木杉	850	28
20		ケヤキ	鶴明神の大ケヤキ	600	25
21		カゴノキ	鹿の子木	470	15
22		ケヤキ	—	330	25
23		ケヤキ	—	315	25
24		ケヤキ	—	300	25
25		ケヤキ	—	250	15
26	鳩山町	ケヤキ	—	305	28

出典：「第 6 回自然環境保全基礎調査」（環境省）

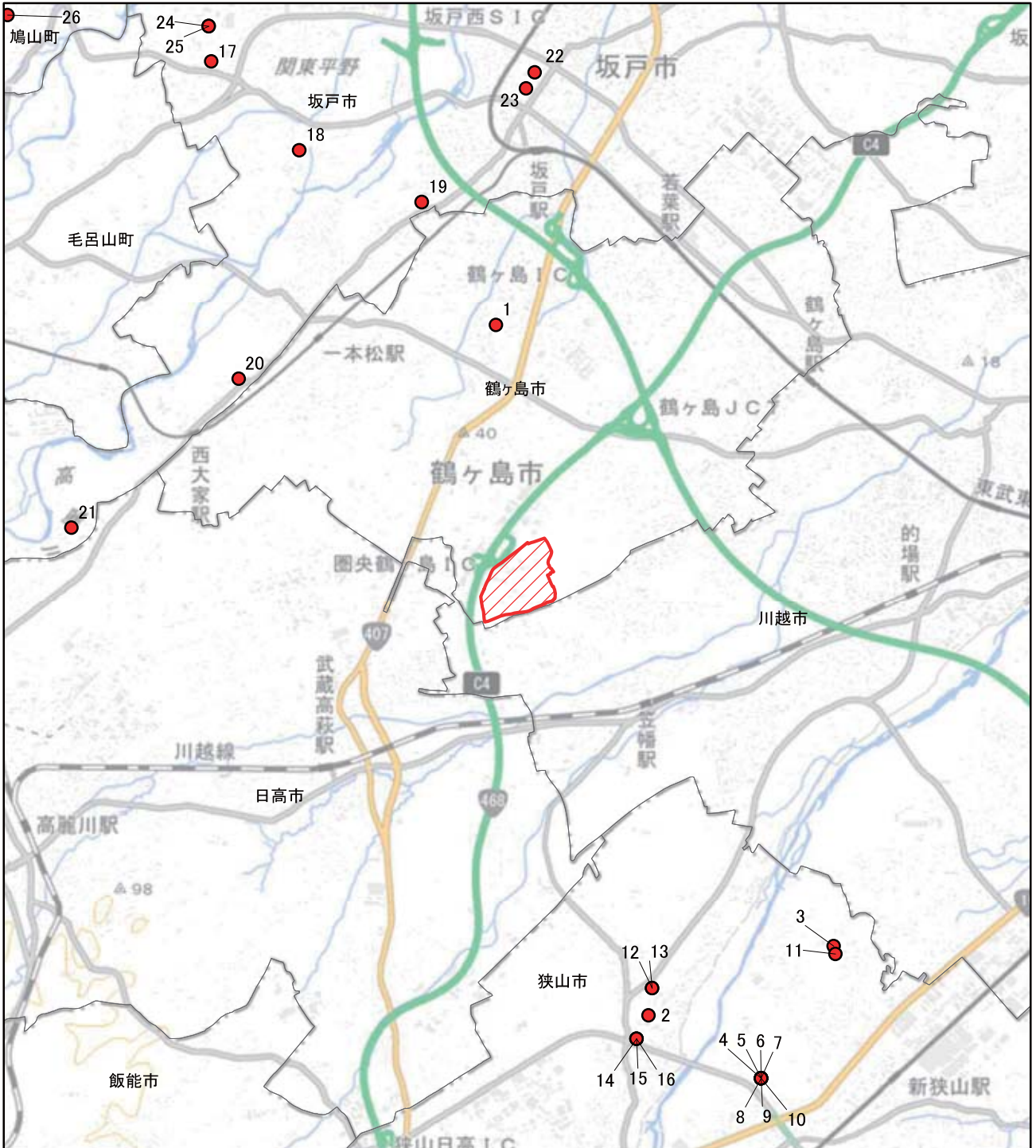



図3.2-19 巨樹・巨木位置図

凡例

● 巨樹・巨木位置

 対象事業実施区域

出典：「第6回自然環境保全基礎調査」GISデータ(環境省生物多様性センター)を使用し、作成・加工したものである。
http://www.biodic.go.jp/ne_research.html#id13

1:60,000



5) 生態系の状況

対象事業実施区域及びその周辺における生態系の状況を表 3.2-42 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、樹林環境、畑雑草群落、市街地の各環境要素で構成されており、樹林環境を中心に生息・生育する動物、植物と、周辺の畑雑草群落や市街地で生息・生育する動物、植物により形成される生態系となっている。

表 3.2-42 対象事業実施区域及びその周辺における生態系の状況

地形	主な植生の構成と区分		主な植物	主な動物
火山灰台地 (平坦地)	樹林環境	ヤマツツジー アカマツ群集	アカマツ、エゴノキ、 ヒノキ、アズマネザサ、 ヤマノイモ	【鳥類】 カッコウ、コゲラ、 ウグイス、ハシボソガラス 【哺乳類】 キュウシュウノウサギ、 ホンドキツネ 【爬虫類】 シマヘビ、 アオダイショウ
		クスギー コナラ群集	コナラ、エゴノキ、 ヤマウルシ、アズマネザサ	
		スギ・ヒノキ・ サワラ植林	スギ、ヒノキ	
	乾性草地環境	畑雑草群落	イネ科草本	【爬虫類】 ヒガシニホントカゲ、 ニホンカナヘビ 【両生類】 ニホンアマガエル 【昆虫類】 シオカラトンボ、 ナツアカネ、アキアカネ、 クルマバッタ、アブラゼミ、 アメンボ、ミツバチ、 モンキチョウ、 モンシロチョウ、 ベニシジミ
	市街地環境	市街地	—	【鳥類】 ツバメ、ヒヨドリ、 ジョウビタキ、メジロ、 スズメ、オナガ、 ハシブトガラス 【哺乳類】 アブラコウモリ、 ホンドアカネズミ、 ホンドキツネ

3.2.7 景観、自然とのふれあいの場の状況

1) 景観資源の状況

調査対象範囲の景観資源を表 3.2-43 に、その位置を図 3.2-20 に示す。

調査対象範囲には、高麗川、小畔川、入間川に囲まれた台地により形成された緑や湿地の自然景観資源が分布している。人工的な景観資源としては、人の生活や地域の歴史の中で保存されてきた建築物などが点在している。

表 3.2-43 主な景観資源

No.	区分	名称
1	景観活動	狭山茶鈴木園
2	建築物	日本キリスト教会神学校・教会事務所
3		サミー（株）川越工場
4		城西大学清光会館
5		若葉駅西口駅舎
6	自然・緑地・農地等	川の小径
7	森	羽折稲荷神社
8		高德神社
9		八幡神社
10		尾崎神社
11		梅宮神社
12		亀井神社
13		氷川神社
14		日枝神社
15	並木道	日光街道杉並木
16	特定植物群落	五味ヶ谷のアカマツ林
17		高德神社の社寺林
18	湿地	小畔川流域
19		下加治一芦荊場湿田
20		高麗川・四日市場地区
21		高麗川・浅羽地区

出典：「第2回自然環境保全基礎調査」（環境庁）
「第5回自然環境保全基礎調査」（環境省）
「埼玉県景観資源データベースシステム」（埼玉県）
「埼玉県地理環境情報 WebGIS」（埼玉県）
「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」（埼玉県川越都市圏まちづくり協議会）

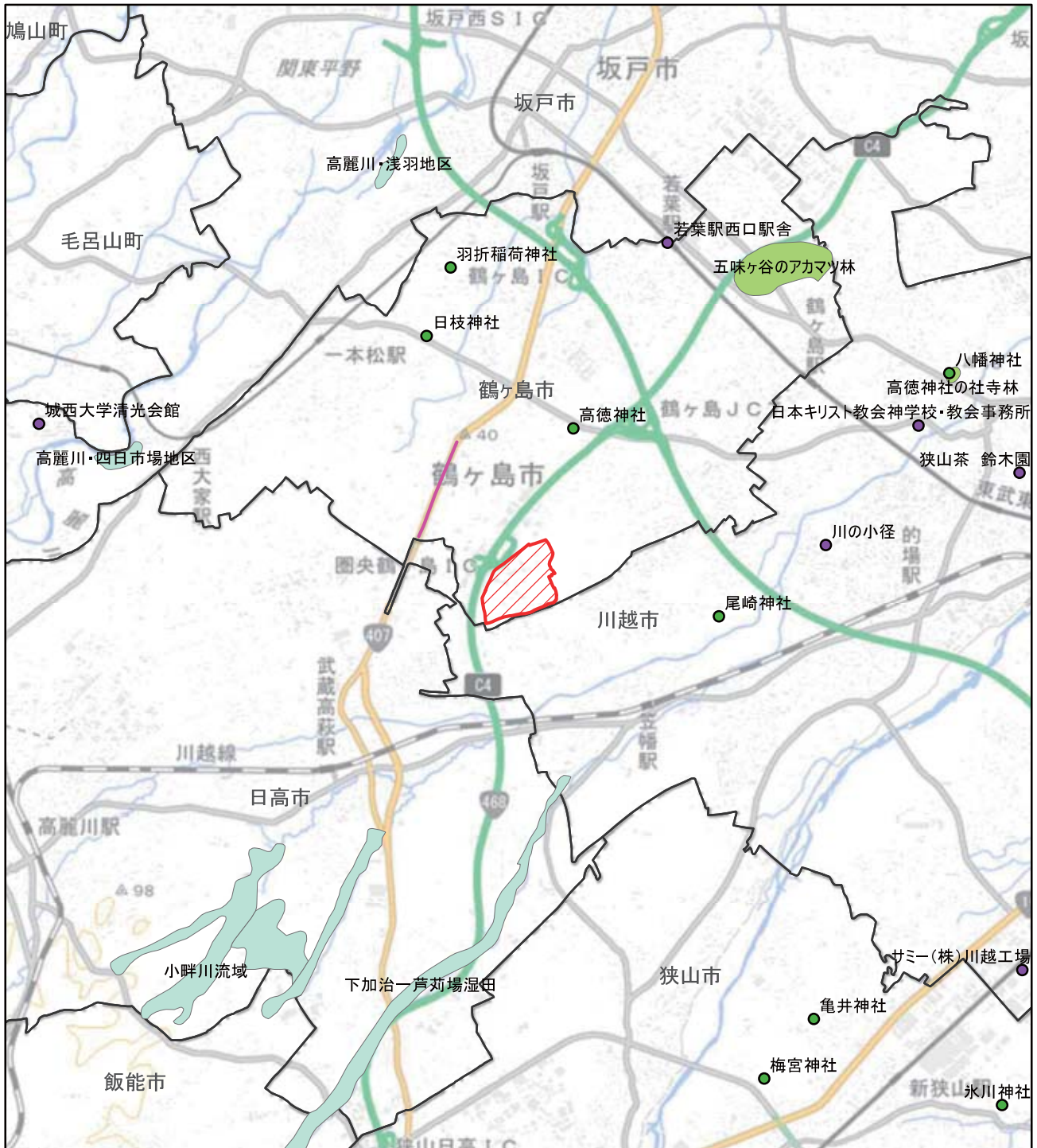


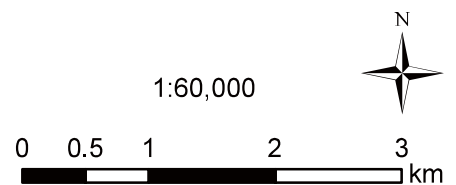
図3.2-20 景観資源位置図

凡例

- 景観資源
- 森
- 並木道(日光街道杉並木)
- 特定植物群落
- 湿地

 対象事業実施区域

出典:「第2回自然環境保全基礎調査」、「第5回自然環境保全基礎調査」
 GISデータ(環境省生物多様性センター)を使用し、作成・加工したものである。
http://www.biodic.go.jp/ne_research.html#id13
 「埼玉県景観資源データベースシステム」(埼玉県)より作成
 「埼玉県地理環境情報WebGIS」(埼玉県)より作成
 「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」
 (埼玉県川越都市圏まちづくり協議会)より作成



2) 主要な眺望地点の状況

調査対象範囲における主要な眺望地点を表 3.2-44 に、その位置を図 3.2-21 に示す。

鶴ヶ島市の地形は台地となっており、地形の起伏はなく平坦であることから、対象事業実施区域周辺において自然の地形を活かした眺望地点はない。

主要な眺望地点となる可能性のある場所は、対象事業実施区域に比較的近く、不特定多数の人が利用する公共施設等が考えられる。

対象事業実施区域に最も近い眺望地点は、隣接する鶴ヶ島市運動公園であり、次に近い眺望地点は、対象事業実施区域の北西約 600m の鶴ヶ島市市民テニス場である。

表 3.2-44 主要な眺望地点

No.	名 称	対象事業実施区域からの距離(m)
1	鶴ヶ島市役所	1,370
2	鶴ヶ島市立中央図書館	1,110
3	鶴ヶ島市大橋児童館/鶴ヶ島市立図書館大橋分室	1,180
4	鶴ヶ島南公園	1,590
5	川越市西図書館	2,880
6	鶴ヶ島市海洋センター	2,180
7	御伊勢塚公園	2,740
8	笠幡公園	1,420
9	霞ヶ関農産物直売所	2,340
10	笠幡駅	1,370
11	武蔵高萩駅	2,130
12	鶴ヶ島市市民テニス場	580
13	鶴ヶ島市運動公園	300
14	日光街道杉並木	830

出典：「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」（埼玉県川越都市圏まちづくり協議会）

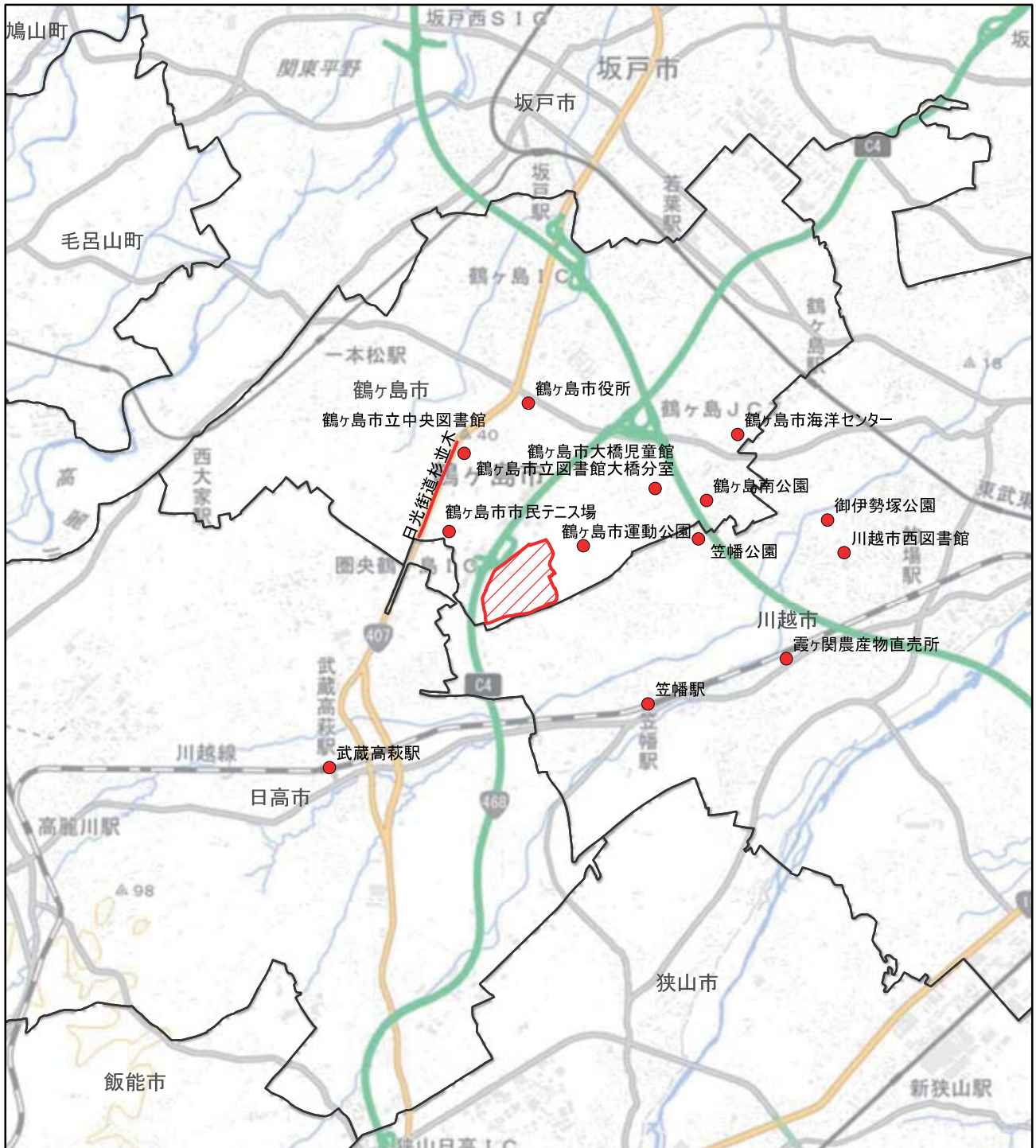


図3.2-21 主要な眺望地点位置図

凡例

- 主要な眺望地点
- 主要な眺望地点(日光街道杉並木)

対象事業実施区域



1:60,000



出典:「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」
(埼玉県川越都市圏まちづくり協議会)より作成

3) 自然とのふれあいの場の状況

調査対象範囲における自然とのふれあいの場を表 3.2-45 に、その位置を図 3.2-22 に示す。

自然とふれあえることができる公園や、社寺林などから形成される身近にふれあえる森など、地域住民の生活に根付いたまとまったみどりや、日光街道並木道に見られる自然とふれあいながら歩くことができる空間などが分布している。

対象事業実施区域に最も近い自然とのふれあいの場は、隣接する鶴ヶ島運動公園であり、自然観察の場としても利用されている。

表 3.2-45 主な自然とのふれあいの場

No.	名 称	選定理由、自然とのふれあいの特徴
1	白鬚神社	埼玉県指定天然記念物の脚折のケヤキがある歴史的文化財
2	鶴ヶ島市運動公園	桜、沼、自然観察場所など自然とふれあえるレクリエーション公園
3	御伊勢塚公園	雑木林や池などがある自然豊かな公園
4	小畔水鳥の郷公園	水辺や水辺の生きものとふれあえる場
5	智光山公園	アカマツ、コナラ、クヌギなどがある自然豊かなレクリエーション公園
6	智光山公園こども動物園	自然の中で動物とふれあえる場
7	女影ヶ原古戦場跡	自然とふれあえる歴史探索の場
8	聖天宮	田園風景、まとまった緑の中にある歴史的建造物がある場
9	浅羽ビオトープ	湿生の動植物とふれあえる場
10	羽折稻荷神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
11	高德神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
12	八幡神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
13	尾崎神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
14	梅宮神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
15	亀井神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
16	氷川神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
17	日枝神社	日常生活の中で身近にふれあえる森
18	日光街道杉並木	杉並木がある街道

出典：「埼玉県地理環境情報 WebGIS」(埼玉県)

「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」(埼玉県川越都市圏まちづくり協議会)

「埼玉県川越の観光・お出かけ・地域情報サイト カワゴエール (ウェブサイト)」

「狭山市ウェブサイト」

「日高市ウェブサイト」

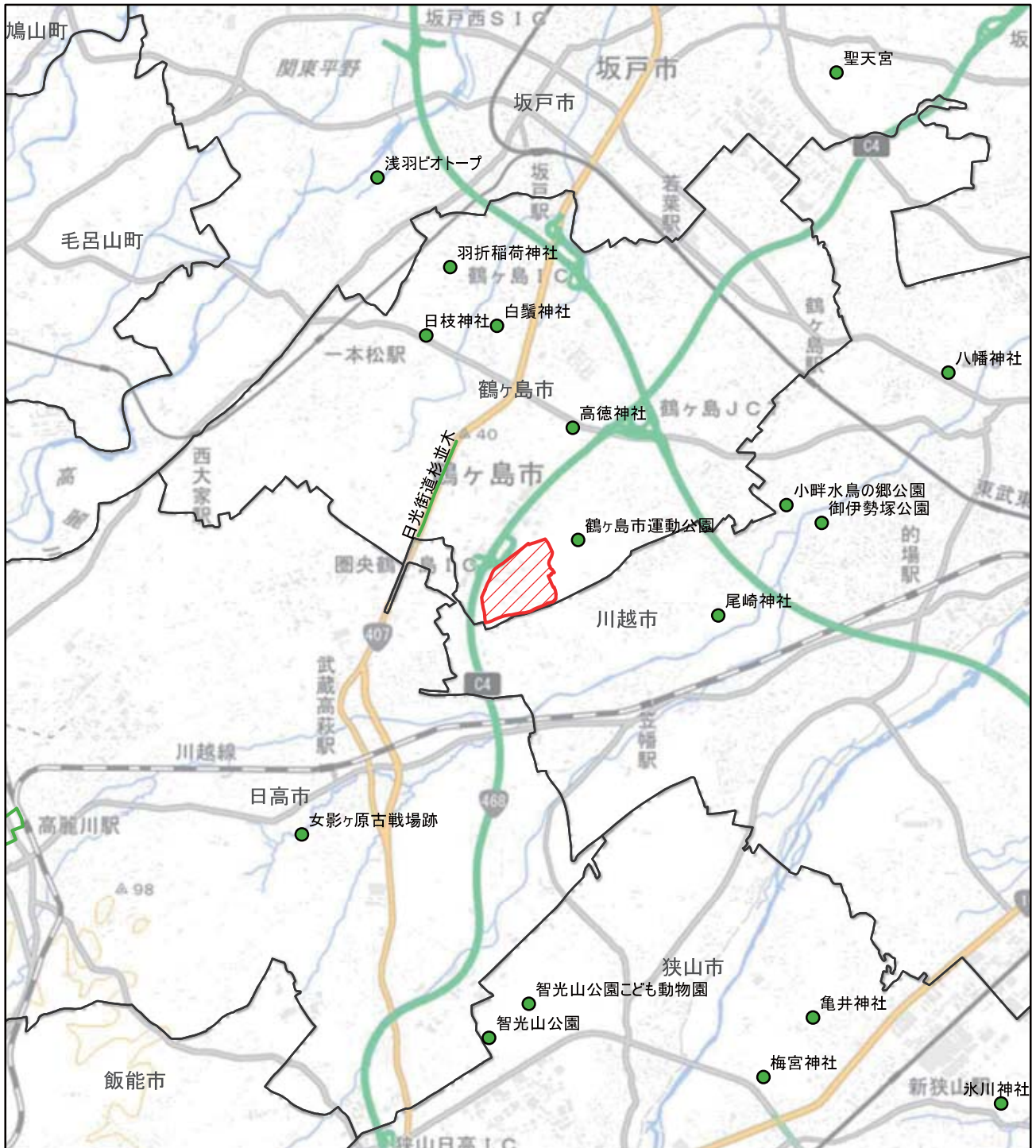



図3.2-22 自然とのふれあいの場位置図

凡例

- 自然とのふれあいの場
- 自然とのふれあいの場(日光街道杉並木)

 対象事業実施区域

出典:「埼玉県地理環境情報WebGIS」(埼玉県)
「レインボーおでかけマップ広域観光ガイド」
(埼玉県川越都市圏まちづくり協議会)より作成
「埼玉県川越の観光・お出かけ・地域情報サイト
カワゴエール(ウェブサイト)」より作成
「狭山市ウェブサイト」より作成
「日高市ウェブサイト」より作成

1:60,000



3.2.8 文化財の状況

1) 指定文化財の状況

調査対象範囲にある指定文化財を表 3.2-46 に、その位置を図 3.2-23 に示す。

鶴ヶ島市には、1 件の市指定有形文化財、2 件の市指定史跡、1 件の県指定天然記念物、2 件の市指定天然記念物がある。

対象事業実施区域に最も近い指定文化財は、対象事業実施区域の東側約 500m に位置する川越市指定天然記念物の笠幡浅間神社のヒヨクヒバである。

表 3.2-46 指定文化財一覧

No.	種別	所在地	指定	名称	指定年月日
1	有形文化財	鶴ヶ島市	市	才道木日光街道道しるべ	平成 18 年 3 月 8 日
2		川越市	市	上戸日枝神社本殿	平成 21 年 1 月 28 日
3				的場八幡神社本殿	平成 17 年 7 月 22 日
4		狭山市	市	広福寺山門	昭和 48 年 3 月 1 日
5		日高市	市	霞野神社の本殿付、剣道の懸額	平成 2 年 3 月 10 日
6				駒形神社の本殿	平成 2 年 3 月 10 日
7				三島神社の本殿	平成 2 年 3 月 10 日
1	史跡	鶴ヶ島市	市	川崎平右衛門陣屋跡	平成 8 年 3 月 21 日
2				地名「鶴ヶ島」発祥の地	平成 18 年 1 月 25 日
3		川越市	市	大堀山館跡	平成 16 年 3 月 23 日
4				牛塚	昭和 33 年 3 月 6 日
5		狭山市	市	上戸日枝神社境内	平成 13 年 5 月 9 日
6				今宿遺跡	昭和 51 年 4 月 1 日
7				城山砦跡	昭和 48 年 3 月 1 日
8				清水濱臣の墓	昭和 48 年 3 月 1 日
9				生越道々標	昭和 50 年 3 月 1 日
10				坂戸市	市
11		片柳の相撲場	昭和 46 年 10 月 1 日		
12		日高市	市	三枝氏歴代の墓	平成 2 年 3 月 10 日
1	旧跡	坂戸市	県	黒川丹波守正直墓	昭和 38 年 8 月 27 日
2				万葉遺跡浅羽野	昭和 36 年 9 月 1 日
3		日高市	県	女影ヶ原古戦場	昭和 36 年 9 月 1 日
1	天然記念物	鶴ヶ島市	市	脚折のケヤキ	昭和 7 年 3 月 31 日
2				三ツ木慈眼寺黒這松	昭和 57 年 3 月 15 日
3				中新田神明社大桜	昭和 57 年 3 月 15 日
4		川越市	市	笠幡浅間神社のヒヨクヒバ	平成 16 年 3 月 24 日
5				鯨井のヒイラギ	昭和 33 年 3 月 6 日
6		坂戸市	市	ステゴビル	昭和 6 年 3 月 31 日
7				土屋神社神木スギ	昭和 23 年 3 月 17 日
8				入西のビヤクシン	昭和 6 年 3 月 31 日
9				カゴノキ (鹿の子木)	昭和 59 年 8 月 27 日

出典：「埼玉県所在国指定・県指定等文化財一覧」（埼玉県ウェブサイト）
「鶴ヶ島市, 川越市, 狭山市, 坂戸市, 日高市各ウェブサイト」

2) 埋蔵文化財の状況

対象事業実施区域及びその周辺の埋蔵文化財包蔵地を図 3.2-24 に示す。対象事業実施区域周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地が広く分布している。

対象事業実施区域の北端部には神明遺跡があり、縄文土器や平安時代の須恵器が出土している。

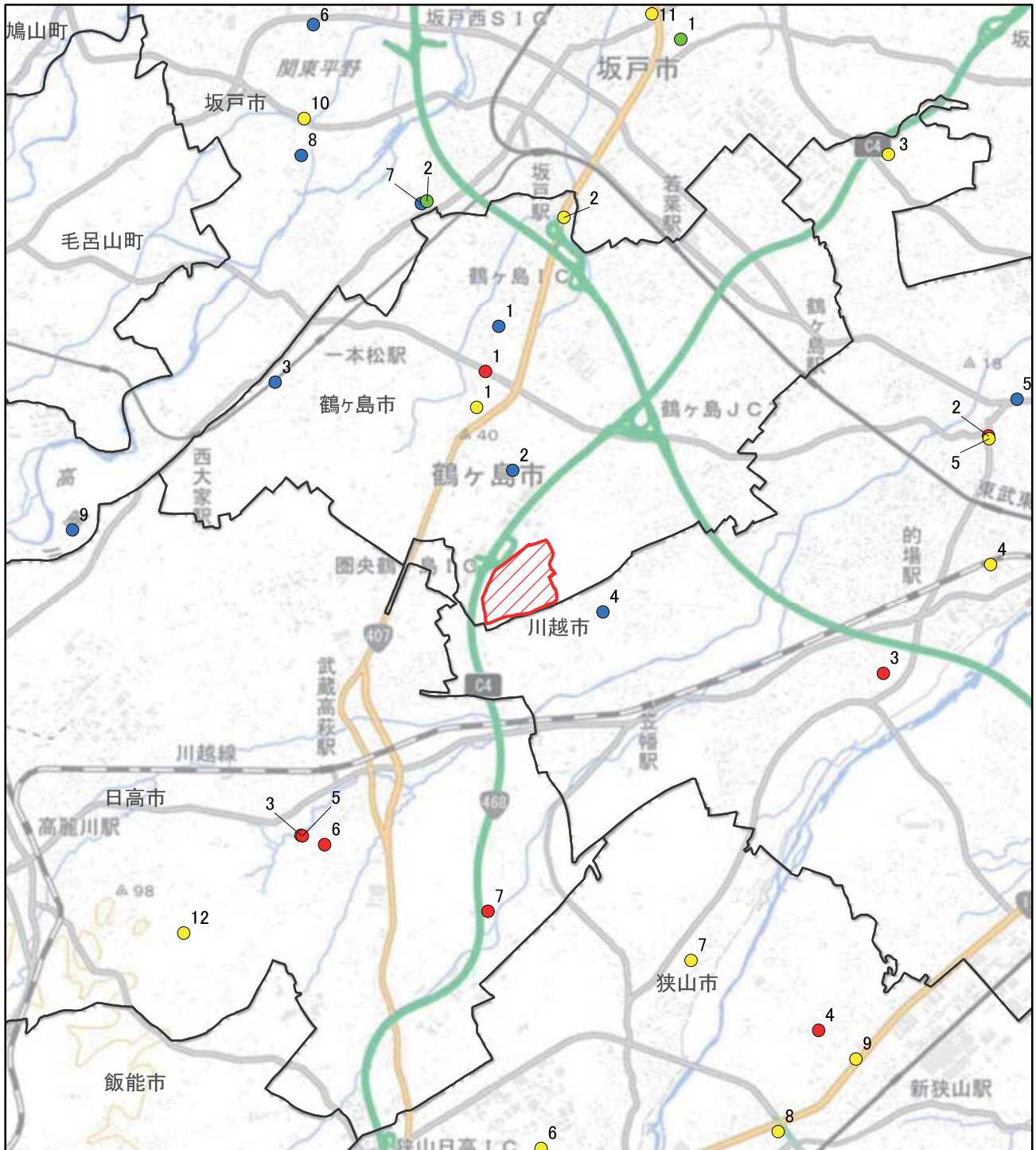


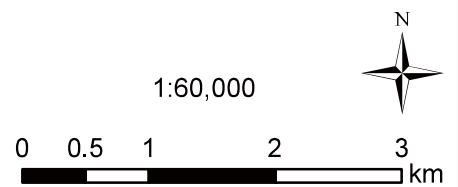
図3.2-23 指定文化財位置図

凡例

- 有形文化財
- 史跡
- 旧跡
- 天然記念物

対象事業実施区域

出典：「鶴ヶ島市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「川越市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「狭山市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「坂戸市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「日高市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「飯能市ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「毛呂山町ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）
 「鳩山町ウェブサイト」より作成（平成30年2月5日調べ）



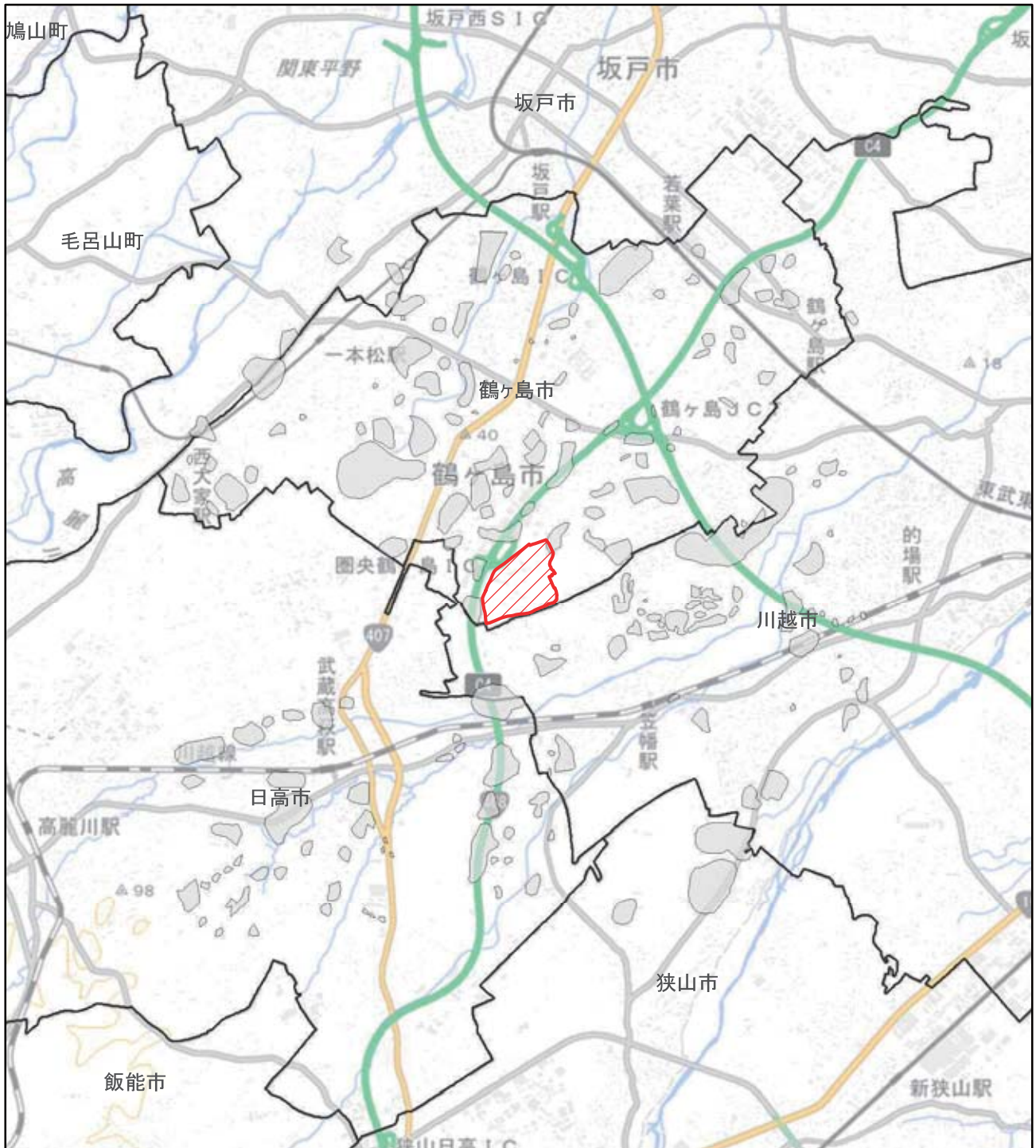


図3.2-24 周知の埋蔵文化財包蔵地位置図

凡例

■ 周知の埋蔵文化財包蔵地

▨ 対象事業実施区域

1:60,000



出典:「埼玉県教育局生涯学習文化財課資料」より作成